



「天空の鐘」出釋迦寺 奥の院捨身ヶ嶽禪定



偉人が生まれた場所。癒しの空間。おもてなしの里。

みちくさ遍路

善通寺市88ヶ所めぐり

偉人が生まれた場所。癒しの空間。おもてなしの里。

みちくさ遍路

善通寺市88ヶ所めぐり



善通寺市の概略

善通寺市は、香川県の北西部に位置する面積39.93km²、人口30,335人（令和6年3月1日現在）の市です。南に大麻山、西に五岳山がそびえ、東と北に讃岐平野が広がっています。気候は瀬戸内海気候に属しており、温暖寡雨で平地での積雪はめったに見られません。

市街地は市のほぼ中央部を総本山善通寺からの拡がりをもって形成されており、中心部には公共機関などが多く立地する独特な構成をしています。

市の歴史は古く、古墳時代には有岡古墳群をはじめとする多数の古墳が築かれました。中世には弘法大師空海の御誕生地として信仰のまちとなり、総本山善通寺の門前町として栄え、明治時代に入ると、旧陸軍第11師団が置かれ、軍隊のまちとして市街地の整備が進みました。戦後は、師団施設跡地に公共機関などが立地され、教育、文化都市として発展してきました。

こうした歴史の痕跡は今もまちのあちこちに残されており、善通寺市の貴重な財産になっています。

偉人が生まれた場所。癒しの空間。おもてなしの里。

みちくさ遍路

善通寺市88ヶ所めぐり

偉人が生まれた場所。

癒しの空間。

おもてなしの里。

香川県の北西部に位置する面積 39.93 km²の小さなまち。

瀬戸内海気候のため、暖かく資源に恵まれ、災害も少ない。

そのため古くから豪族がこの地を選び繁栄した。

その後も門前町として、軍都として、人々はこの場所を選んだ。

そして、四国八十八箇所霊場を求め聖地巡礼に訪れる。

地域の人たちは偉人「弘法大師空海」の教えを胸に「御接待」といわれる

おもてなしの心で旅人を迎え、その精神は今も受け継がれている。

魅力あふれる善通寺市、この地でしか味わえない贅沢な時間を。



紫色に染まります



讃岐もち麦ダイシモチ

ダイシモチは善通寺市内にある当時四国農業試験場（現 国立研究開発法人農研機構西日本農業研究センター）が平成9（1997）年に開発したもち麦です。善通寺市で誕生したことから、弘法大師にちなんで「ダイシモチ」と名付けられました。収穫時期の5月になると、その大きな特徴である紫色の穂が風にたなびき、畑一面が紫色に染まります。プチプチとした食感と優しい甘みがあり、ごはんこうぼうだいしに混ぜて炊くと鮮やかな紫色になります。ダイシモチ品種で初めて機能性表示食品として認定され、栄養価が優れた食品として好評を博し、健康ブームも相まって幅広い年齢層の方に支持される人気商品となっています。



むぎゅ〜ちゃん
讃岐もち麦ダイシモチ
公式キャラクター
善通寺市観光大使

もち麦



毎日の食事から始まる健やかな生活

讃岐もち麦ダイシモチは精白米の約30倍の食物繊維が含まれており、生活習慣病の予防に効果があると言われていたβ-グルカン（水溶性食物繊維）がとりわけ豊富に含まれています。お米に混ぜて炊くだけで、おいしい「もち麦ご飯」ができあがります。



ダイシモチの甘酒



ご飯がいらぬ
もち麦カレー



ダイシモチコロッケ



ダイシ小判

ダイシモチ
麦麺



ダイシモチの里
讃岐うどん

ダイシ
だら焼き



大師もち麦焼酎 空海

— わが心 空の如く わが心 海の如く —

讃岐もち麦ダイシモチを100%使用した本格麦焼酎。広い空のような軽快な香りと海のようにやさしく深みのある味わいです。ラベルは総本山善通寺法主（真言宗善通寺派管長）智督潤師の直筆で、善通寺で御祈禱を受けた御利益のある焼酎です。



食べる



香緑



さぬきゴールド



さぬきキウイっこ

キウイフルーツ

香川県は温暖で雨の少ない気候から果物の生産が盛んです。特に善通寺市はキウイフルーツの一大産地であり、一般的な品種である「ヘイワード」のほか、「香粹」、「香緑」、「さぬきゴールド」、「さぬきキウイっこ」など香川県独自ブランドの珍しく良質なキウイフルーツが栽培されており、百貨店や有名果物店でも販売されるほど高い評価を受けています。

四角スイカ「縞王」

「丸くないスイカがあってもいいのでは？」こんなスイカ農家の“ひらめき”から誕生したのが四角スイカ「縞王」です。固定概念を覆すインパクトから全国的に話題となり、百貨店などの観賞用ディスプレイとして各地で人気を博しています。 ※食用ではありません。



観る



獅子舞

善通寺市の獅子舞の歴史は古く、室町時代からあったといわれています。現在の善通寺市内の獅子舞は、皇子権現・吉田八幡宮の氏神より伝わる獅子舞を基礎としたものです。毎年総本山善通寺境内で行われる空海まつりでは、市内約40の獅子組が一堂に会し、古来より傳承されてきた舞を披露しています。



里神楽

神楽の起源は一説によると、日本神話の中の「天岩戸伝説」にまでさかのぼり、あまのいわと天照大神が天の岩戸に姿を隠した際、あめのうすめのみこと天鈿女命が岩戸の前で舞った舞が始まりだとされています。神楽は日本全国で傳承されており、宮中で行われる御神楽と一般の神社などに伝わる里神楽があります。市内の神社でも里神楽は傳承され、五穀豊穰や平穏安泰などを祈願し、神様に奉納されます。



楽しむ



Contents

普通寺市特集	4
Contents	8
普通寺市の歴史	144
INDEX	148
参考文献	150
編集後記	150

明治・大正時代に魅せられて

1 普通寺駅	10	7 旧陸軍第11師団兵器庫	20
2 旧普通寺偕行社	12	<small>(現 陸上自衛隊普通寺駐屯地倉庫)</small>	
3 讃岐宮(香川県護国神社)	14	8 琴参電車の面影	22
4 乃木神社	16	9 旧瀬川酒店	24
5 旧陸軍第11師団(騎兵隊)兵舎	17	10 旧大川酒店	25
<small>(現 四国学院大学校舎)</small>		11 山下酒店(甘味茶屋 Sari Sari)	26
6 旧陸軍第11師団司令部	18	12 水尾写真館	27
<small>(現 陸上自衛隊普通寺駐屯地・乃木資料館)</small>			

空海の足跡と伝説を訪ねて同行二人霊場巡り

13 総本山普通寺	30	23 濟世橋	45
14 五重塔	32	24 曼荼羅寺	46
15 普通寺金堂	34	25 西行庵(山里庵)	48
16 大楠	36	26 出釋迦寺	50
17 足利尊氏の利生塔	37	27 捨身ヶ嶽禪定	52
18 五百羅漢	38	28 甲山寺	54
19 熊岡菓子店	39	29 甲山	56
20 御影堂	40	30 金倉寺	58
21 宝物館	42	31 乃木將軍妻返し <small>の松</small>	60
22 涅槃桜	44	32 智証大師降誕浴灌井	61

いにしへの歴史に思いを馳せながらロマンの小旅

33 普通寺市立郷土館	62	45 レターポスト	79
34 王墓山古墳	64	46 犬塚	80
35 野田院古墳	66	47 仙遊寺	81
36 宮が尾古墳	68	48 阿瀬の地藏菩薩	82
37 磨白山古墳割竹形石棺	70	49 仲村城跡	83
38 岡古墳群	72	50 雲気神社	84
39 菊塚古墳	73	51 七仏薬師	85
40 吉原椀貸塚古墳	74	52 鷺井神社・青龍古墳	86
41 仲村廃寺	75	53 大地蔵	88
42 与北の茶堂	76	54 我拝師山遺跡	89
43 大麻神社	77	55 月照・信海	90
44 河田迪斎顕彰碑	78	56 天霧山・天霧城跡	92

豊かな自然、緑がたっぷりの山道を散策

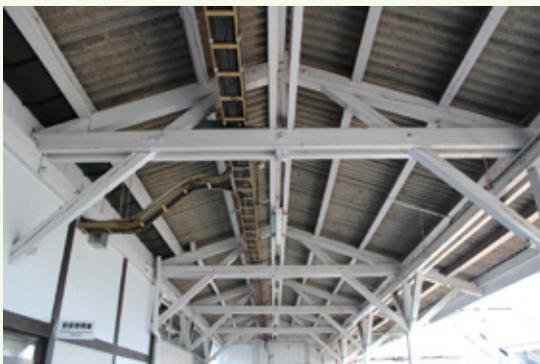
57 香色山	96	67 木熊野神社	106
58 ミニ88ヶ所	97	68 大麻山	108
59 筆ノ山	98	69 吉田八幡神社と石神神社	110
60 我拝師山	99	70 大井湧(上湧・下湧)	112
61 中山	100	71 永井清水	113
62 火上山	101	72 二頭出水	114
63 弘田川	102	73 壱岐の湧	115
64 金倉川	103	74 買田池	116
65 前池のオニバス	104	75 大池	117
66 カイズカの並木	105	76 地藏池	118

充実した施設、普通寺市は面白い。学べる。楽しい。

77 普通寺市美術館(大西忠夫記念館)	120	83 おしゃべり広場	130
78 普通寺市民体育館・普通寺市民プール	122	84 「普通寺五岳の里」市民集いの丘公園	132
79 御野立公園	124	85 鉢伏ふれあい公園	134
80 赤門七仏薬師	125	86 ゆうゆうロード	136
81 普通寺市観光交流センター	126	87 にぎわい広場	138
82 偕行社かふえ	128	88 普通寺駅の桜	140



表玄関の石段は、大正時代のものが今でも使われています。



ホームの天井には、大正時代の木組みが残されています。



- 文京町一丁目7-1
- JR高松駅から普通列車で約60分。
駅前の道は片原町通り。
- 駐車場／あり

激動の時代をこえ、 今も使われ続けるまちの玄関

JR善通寺駅は明治22（1889）年5月、讃岐鉄道会社の駅として使われはじめて以来、この場所にあります。

当時は琴平～多度津～丸亀間の約15.5kmの鉄道で善通寺や金刀比羅宮への参拝客が多く、巡拝鉄道とも呼ばれていました。そのため「上り列車」は、今とは逆の琴平方面行きのことでした。

その後、明治39（1906）年に国有鉄道法により国に買収され、大正11（1922）年秋には陸軍大演習の開催に合わせて駅舎を大改

築しました。さらに平成3（1991）年に改築し、屋根が寄棟造になったものの、表玄関やホームには大正の頃の木組みがそのまま残されています。平成14（2002）年に駅の本屋、1番ホーム上屋、2番ホーム上屋、跨線橋が国の登録有形文化財に指定され、また、善通寺駅は平成21（2009）年に経済産業省の「近代化産業遺産」に認定されました。

大正時代に造られた石段を踏み駅舎を出ると、町並みのむこうに五岳山の緑が望めます。さあ、善通寺市の時間旅行に踏み出しましょう。



ホームの北端に架かる跨線橋は明治22（1889）年のもので、骨組みには輸入されたレール材（Barrow Steel製）が使われています。大正時代の構造がそのまま残されています。



【正面玄関】切妻造りに石の角柱が目をはきます。



【南面】バルコニーの下の赤煉瓦は明治時代のもの。通風口の鉄柵には陸軍の星形が見えます。

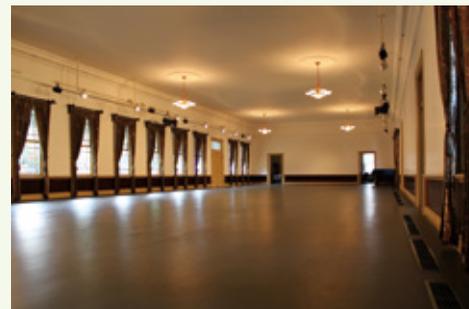


- 市役所
- 旧善通寺偕行社
- 文京町二丁目1-1
- JR善通寺駅から徒歩約3分。市役所の敷地内。
- 見学時間／10:00～16:00
- 貸館中は見学できない場合あり
- 休館日／年末年始・臨時休館あり
- 入館料／無料（貸館は有料）
- 駐車場／車は市役所の駐車場を利用
- 問い合わせ／☎ 0877-63-6362

将校たちの華やかな社交場

「偕行社」は旧陸軍の現役将校のための団体で、主に親睦事業が行われていました。明治36(1903)年に建てられたこの建物は、そのため集会所です。木造平屋建てで、寄棟造の大屋根をのせた横長の建物。正面には角柱や三角ペディメントによる玄関ポーチと車寄せを構え、全体にルネッサンス様式を基調とした端正な造りで、大正11(1922)年には皇太子(後の昭和天皇)が御宿泊されています。

戦後は一時アメリカ軍が進駐し、その後は検察局など公的機関として利用されていましたが、昭和29(1954)年から善通寺市庁舎および公民館として使われ、昭和55(1980)年には市立郷土館として改修復元されました。平成13(2001)年に国の重要文化財に指定され、平成17(2005)年に郷土館を移転し、明治時代の面影を大切に耐震工事を施し



【内部】かつては将校たちが集う大広間でした。

ました。

南面は、バルコニーが全室をつなぎ、屋根の一部には明治時代の瓦が残されています。裏庭は緑の芝生、春の桜や秋の紅葉など季節の風景が今も人々をいやします。

現在では建物の見学もでき、隣接して「偕行社かふえ」もオープンしました。各種イベントや結婚式場としても利用されるようになり、かつての舞踏会を思わせて、華やかに包まれます。



【裏庭】季節を彩るバルコニー

さぬきくう かがわけんごこくじんじや
讃岐宮 (香川縣護國神社)



均整のとれた、豊かな緑に囲まれた静かなたたずまい

明治維新以来の
御英霊をまつる神社

駅前の片原町通りを西に進むと、四国学院大学西側の大通りに面して、讃岐宮(香川縣護國神社)と乃木神社の社叢が見えてきます。

讃岐宮は約10,200坪もあり、明治維新以来、国のために尊い命を捧げた香川県出身の35,800余柱の御英霊と共に、警察、消防殉職者などが相殿にまつられています。

護國神社の歴史は、明治10(1877)年に丸亀招魂社が創設され、明治32(1899)年に陸軍第11師団長乃木希典が善通寺練兵場で初めて師団招魂祭を行ったのに始まります。その後、昭和16(1941)年に、県民の勤労奉仕と全県下からの献木によって完成しました。

境内には貴重な戦争資料が納められた「護國神社史料館」があり、平和な日々のありがたさをしみじみと感じさせます。

五月の獅子舞、夏の万灯みたまつり

讃岐宮(香川縣護國神社)は、季節ごとにさまざまな祭典行事が行われています。

● **春季例大祭 (5月5日)**
 讃岐宮の最大のお祭り。獅子舞の奉納のあと、独自の作法にのっとった例祭の儀式が行われます。また、日本の伝統的な武道や芸能も奉納されます。

● **万灯みたまつり (8月13日・14日・15日)**
 御英霊をお慰めし、恒久平和を祈る献灯に灯りが点され、神賑行事として和太鼓演奏などが奉納されます。15日には終戦祈念祭が執り行われます。

● **新嘗祭・献茶祭 (11月23日)**
 新穀をお供えして収穫を感謝する祭儀に併せ、表千家、裏千家が隔年交代で神前に濃茶、薄茶を献じ、当日には奉賛茶会も開催されます。



【万灯みたまつり】
 延々と続く提灯に導かれてお参りに



【観月の宴】
 幻想的な空間でのお月見

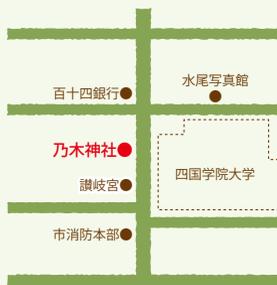
● **観月の宴 (中秋の名月の頃)**
 かがり火やぼんぼりの灯りの下に、ますせき升席を設け、特製お月見鍋を味わいます。



- 文京町四丁目5-5
- JR善通寺駅から徒歩約10分
- 駐車場/あり
- 問い合わせ/ ☎ 0877-62-0048



簡素なデザインの社殿



- 文京町四丁目(讃岐宮北側)
- JR善通寺駅から徒歩約10分

のぎまれのすけ 乃木希典をまつる 市街地の静かな杜

讃岐宮(香川県護國神社)の北側に隣り合っているのが乃木神社です。神明型というシンプルな形の鳥居が目印。明治天皇の御大葬日(1912年9月13日)に殉死した乃木希典・静子夫妻が御祭神としてまつられ、後に先賢堂、日本一社交通神社が相殿にまつられました。

乃木神社は、乃木將軍の生きざまに感動して多くの人々が乃木邸を訪れ、夫妻の霊を慰める「乃木会」が結成されたことに始まります。東京など数ヶ所に乃木將軍夫妻をまつる神社がつくられ、善通寺市(当時の善通寺町)には昭和11(1936)年に社殿が造営されました。

装飾を抑えた簡素なデザインで、従来の伝統的な神社建築とは異なるところがあるため、大工でなく建築家のデザインによるものではないともいわれています。建物は国の登録有形文化財。拝殿に入れば、乃木將軍と静子夫人の写真が飾られています。

境内には、軍馬の忠魂碑や土木建築などの技術を持つ「工兵隊」の歴史が刻まれた石碑、旧工兵第11連隊の門碑などが残されています。広々とした境内の讃岐宮と併せ、じっくりと巡ってみましょう。



神明型のシンプルな形の鳥居



クリーム色の壁と4本の石柱が特徴の玄関ポーチ



- 文京町三丁目2-1
- JR善通寺駅から徒歩約7分。
四国学院大学構内2号館。
- 見学するときは大学の守衛室まで

大学の学び舎となった兵舎

かつて、片原町通りの善通寺郵便局あたりには、輜重隊(水・食料・武器弾薬・各種資材などさまざまな物資を第一線部隊に輸送して、その戦闘力を維持増進するための部隊)の建物がありました。そこから西に進むと善通寺市民会館があり、隣が四国学院大学です。

この大学構内に騎兵隊の旧兵舎が残されています。かつて市内のあちこちにあった木造兵舎のひとつで、大学の校舎に生まれ変わったものです。

2号館と呼ばれているこの建物は、国の登

録有形文化財。長さ58.5m、幅約15mのボリュームのある木造2階建てで、玄関ポーチの屋根は4本のりっぱな石柱で支えられています。何度もペンキを塗り重ねた壁面には縦長の窓が続き整然とした印象。中に入ると、兵舎らしい簡素な造りで、学びの場にふさわしい清潔感のある雰囲気が漂います。

この建物は、香川県出身の本広克行監督の映画「サマータイムマシン・ブルース」にも登場しました。撮影用に特注したという大時計が今もかけられています。

きゅうりくくんだいじゅういちしだんしれいぶ 旧陸軍第11師団司令部

(現 陸上自衛隊善通寺駐屯地・乃木資料館)



格調高い建物

カイツカ並木の奥、 威厳にみちた洋風建築

カイツカ並木の奥に見えるのは、明治31(1898)年に竣工した旧陸軍第11師団司令部の建物。現在は陸上自衛隊第14音楽隊が使用しています。漆喰塗りの外壁に寄棟造の瓦屋根をのせて、ルネッサンス様式を基調にした洋風建築です。正面の車寄せは大正11(1922)年、当時の皇太子(昭和天皇)の来臨を機につけ加えたものですが、外観全体としては竣工当時の雰囲気をよく残しています。

映画に登場しそうな中央階段を上った2階には、明治31(1898)年から34年までの2年8ヶ月、初代師団長であった乃木将軍の部屋があり、当時のままに残されたこの部屋

は「乃木記念室」となっています。また、旧陸軍、海軍に関する資料室があり、貴重な戦争資料を見ることができます。



中央階段の踊り場から見た玄関ホール



- 生野町2119-1
- JR善通寺駅から徒歩約15分
- 見学時間／9:00~12:00、13:00~16:00
- 休館日／水曜・年末年始
- 入館料／無料
- 予約・申し込みは善通寺駐屯地広報班
☎ 0877-62-2311 (内線2321)
- 戦車などの見学は9:00~16:00の間、その場で申し込み可

軍人の鏡として慕われた乃木希典將軍

東京都の乃木坂にもその名前が残る乃木希典。陸軍大将として尊敬を集めた乃木將軍は、嘉永2(1849)年に長州藩士の子として江戸に生まれ幼名は無人。幼い頃は虚弱体質でよく泣き、武士ではなく学者になりたいと家出をしたこともありましたが、文武両道の必要性を諭され、藩校明倫館に学ぶようになり、一刀流の剣術も学びました。明治4(1871)年陸軍少佐となり、西南戦争では歩兵第14連隊長心得を務めましたが、田原坂の激戦で大切な連隊旗を失い、その後の人生に大きな影響を与えることとなります。



初代師団長 乃木希典

ドイツ留学後は生まれ変わったように軍人教育の重要性を説き、いついかなるときも乱れることなく軍服



旧陸軍第11師団司令部にある乃木希典が執務した部屋

を着用するようになりました。日清戦争従軍後は台湾総督に就任し、日露戦争では第3軍司令官として難攻不落といわれた旅順要塞を総攻撃し203高地を占領しました。戦争で二人の息子を失い、悲劇の將軍と呼ばれました。その後は、伯爵となり、学習院院長に任じられます。

明治天皇大葬の日には、東京赤坂の自宅で割腹して殉死。夫人もその後を追いました。当時の国軍の最高峰として「海軍の東郷、陸軍の乃木」と並び称され、多くの国民から慕われました。

善通寺市の棗

棗の木は旧陸軍第11師団司令部(現 陸上自衛隊善通寺駐屯地・乃木資料館)の庭にあり、「庭に1本ナツメの木弾丸跡もいちじるしく・・・」の水師營の歌で知られる旅順水師營の庭から持ち帰ったものです。

棗の木は、善通寺市立東部小学校や善通寺駅東側にある桜の大樹がそびえる広場の一角にも植えられています。



乃木資料館の前にある棗の木

きゅうりくくんだいじゅういちしだんへいきこ 旧陸軍第11師団兵器庫 (現 陸上自衛隊善通寺駐屯地倉庫)

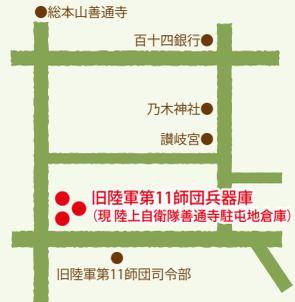
明治・大正時代に魅せられて



赤煉瓦のやわらかな印象と重厚なたたずまい



赤レンガ倉庫がある通りは「ゆうゆうロード」と名付けられています。



- 南町一丁目
- JR善通寺駅から徒歩約15分
- 構内には入れないため、見学は外からのみ

まちの人々に親しまれている 赤煉瓦の建物

旧陸軍第11師団司令部(現 陸上自衛隊善通寺駐屯地)の向かいには、駐屯部隊の施設が並んでいます。その中でひときわ目をひくのが赤煉瓦の3棟の建物です。南、北、東に放射状に配置されたこの建物は、旧陸軍第11師団兵器庫で、明治42(1909)年、明治44(1911)年、大正10(1921)年に建てられました。ドイツ人技師が設計したといわれ、施工したのは地元の小田常太郎氏です。

天井は高く屋根裏もある2階建てで、屋根は切妻造の瓦ぶき。屋根裏は当時の最新設計の合掌造りで、構造は今は少なくなった煉瓦造りです。長さ60mを超える各棟には100ヶ所前後の縦長の窓があり、花こう岩のひさし台と鉄製の両開きの扉がついています。それぞれ微妙に異なるデザインも見所です。

構内には桜、塀の外の「ゆうゆうロード」には銀杏などの街路樹が植えられ、反対側には中谷川の流れを利用した水辺の歩道が続き、気持ちのよい散歩道です。善通寺の五重塔を背にした赤煉瓦の建物は、歴史の厚みを感じさせる善通寺市ならではの風景です。

現在の西中学校のあたりには昭和17(1942)年、国内初の捕虜収容施設として開

設された善通寺俘虜収容所ふりよがあり、終戦には109人もの人々がいたと伝わります。これにより師団がありながら空襲を免れ、貴重な明治の建築物を見ることができるのでしょう。



連続する縦長の窓



南棟の工事中の写真。煉瓦積みを終え、屋根にかかるところ。写真提供/水尾写真館

明治・大正時代に魅せられて



多くの人々が琴参電車を利用していました。
写真提供/琴参バス株式会社



普通寺赤門前駅の姿
写真提供/琴参バス株式会社

大正から昭和の激動期に 走っていた電車

琴平参宮電鉄によって、普通寺から丸亀まで電車が開通したのは、大正11(1922)年のこと。同年11月に行われた陸軍特別大演習に、後の昭和天皇、当時の皇太子が行幸されることになり、この一大行事に合わせて開通しました。

当初の駅は現在の普通寺駅の駐輪場のあたりにありましたが、大正12(1923)年に琴平まで延長することになり、片原町を通過して琴平に向かう案などが出ました。ところが、片原町には騎兵隊があって馬が暴れるという理由で、本郷通りを通過して赤門前から琴平に向かうことになったそうです。大正13(1924)年には普通寺・多度津間、昭和3(1928)年には丸亀・坂出間と次々に延長。市民の足として、また参拝鉄道として人気を呼びました。

赤門筋と本郷通りの交差点に、普通寺赤門前駅が置かれていました。その昔は本郷通りに車庫があり、赤門前から市街地の中心部を南へ進み、現在の土讃線に併行して琴平まで電車が走りました。丸亀・琴平方面は同じプラットフォームでしたが、多度津行きだけは別の乗り場がありピストン運転をしていたとのこと。当初は定員40名ほどの箱電車でした

が、太平洋戦争の勃発とともに武運長久の祈願参拝客や軍隊への入隊、慰問の家族が押し寄せ、うなぎ上りに利用客が増えました。しかし、戦後は道路が整備され路線バスが普及したため、昭和38(1963)年、お別れの花電車を最後に廃止されました。



普通寺赤門前駅周辺の現在の様子



- 普通寺町一丁目・七丁目
- JR普通寺駅から徒歩約13分。赤門筋入口。



なまこ壁の蔵とおおらかな造りの母屋が特徴です。瓦や漆喰壁の美しさに注目。

伝説の銘酒「師団一」を生んだ かつての造り酒屋

善通寺駅から続く片原通りに、旧瀬川酒店の土蔵造りの建物があります。明治31（1898）年に琴平の榎井にある丸尾醸造所の支店として始まり、大正6（1917）年に棟上げをしたのが現在の建物。母屋は本瓦ぶき入母屋造で、続いて北倉、西倉、東倉と増築されました。

その昔は酒造りも行っていて、日露戦争凱旋のときに、初代師団長の乃木希典が、八幡神社に奉納した酒をたいそうほめてくれたことから、「師団一」という名前をつけて販売

していました。しかし第二次世界大戦後、丸尾本店への酒造権譲渡に伴い廃業しました。その後も店は改造を重ね小売酒販店として営業を続けていましたが、現在は廃業し、貸店舗として存続しています。

駅前が続くこの通りには古い建物も残り、今と昔が不思議な調和を見せています。



左官の技術を活かした壁とおおらかな造りが特徴

漆喰壁に描かれた鏝絵も みごとな造り酒屋

本郷通りの南側に、どっしりとした構えを見せる旧大川酒店は、明治34（1901）年頃に建てられました。木造2階建てで、波の棟飾り、正面および東側の鏝絵が描かれた漆喰壁が印象的です。ここで「清酒五岳」を造り始めたのは大正12（1923）年で、敷地内には精米所や醸造蔵もありました。

西側には、木造2階建て瓦ぶきの洋風建築があります。これは大川酒店の応接間とし

て使われていた新屋で、昭和12（1937）年に建てられました。伝統的な和風建築の母屋としゃれた西洋館が隣り合い、当時の大川酒店の勢いのほどをうかがわせます。





昭和浪漫の風情を残す山下酒店



- 普通寺町五丁目5-22
- 総本山普通寺御影堂から徒歩約3分
- 営業時間 / 11:30~23:00 (夕方閉店の場合あり)
- 不定休
- 駐車場 / あり
- 問い合わせ / ☎ 0877-85-5355

酒店の古民家が甘味茶屋に

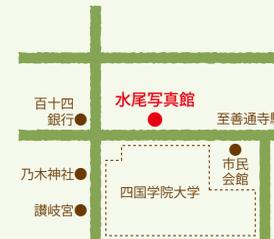
総本山普通寺の御影堂から徒歩3分のところに山下酒店があります。

建物は築100年以上。以前は酒屋として周辺の飲食店などに配達していました。そのご縁は今も続き、倉庫には飲み物が保管され、酒店として配達を主に営業を続けています。また現在は「甘味茶屋 Sari Sari」としても営業しています。趣ある路地に昭和レトロな建物が多い普通寺市を象徴するような古民家カフェです。

入り口すぐのスペースは、以前は土間でしたが今は板張り、太くて頼もしい梁を見上げる吹き抜けの空間になりました。すぐに座敷があり、畳の上でくつろぐことができます。味のあるガラス戸など、大正初期から昭和浪漫の風情を残す山下酒店。今では、おいしい甘味やお酒も相まって、味わい深いひとときを過ごせます。



大正の面影が残る外観



- 上吉田町三丁目4-6
- JR 普通寺駅から徒歩約7分
- 営業時間 / 9:00~19:00
- 不定休
- 問い合わせ / ☎ 0877-62-0164

当時の優雅な雰囲気が残る 洋風の写真館

四国学院大学の向かいに洋風の写真館があります。木造2階建ての寄棟造で、基礎は石造です。外壁は白く塗った下見板張りで、正面上部には浮き彫りになった「水尾」の文字が見えます。

創業は明治34(1901)年で、店舗兼住宅のこの建物になったのは大正末期(1920年代)でした。かつては、ガラス張りの天井から

入る太陽光を利用して写真を撮影していました。

出入り口の引き戸や窓の上の欄間、軒下、柱に装飾があり、内部ではカメラの絞りをデザインした天井レリーフや階段の手すりに装飾が施されていて、優雅な雰囲気をつくり出しています。ここは、旧陸軍第11師団やまちの人々が訪れる記念の場所でした。

当時の洋風建築のまま現在でも営業している、全国でも珍しい写真館です。



空海の足跡と伝説を訪ねて同行二人 善通寺市の靈跡巡り

こうぼうだいしこうかい 弘法大師空海

「お大師さま」と慕われる弘法大師空海は、宝亀5(774)年6月15日、多度郡屏風浦たどのこおりびょうぶがうら(現在の善通寺市)に、父・佐伯善通さえきよしみち、母・玉寄御前たまよりごぜんの三男として生まれました。幼名は真魚まおといい、11歳で叔父・阿刀大足あとのおおたりに学び、15歳で上京し18歳で大学明経科みょうきょうに入学しました。しかし、立身出世を目的とする勉強に疑問を抱き、人生の根本問題を解決するには仏教しかないと思いを決して退学。奈良の吉野山や四国各地を歩きまわり、僧侶として「空海」と名乗るようになります。24歳になった空海は「鬘髻指帰ろうこしいき」を書き上げ、儒教、道教と比較し、仏教の優れた点を明らかにしました。

延暦23(804)年には念願ねんくわんかなって留学生として中国にわたり、長安で青龍寺の恵果和尚けいがかしやうから真言密教を直伝され、真言宗第8祖となります。日本における真言宗の開祖となった空海は、唐から持ち帰った品々を記した「御請来目録ごしょうらいもくろく」を朝廷に上表し、やがて歴代天皇から厚い信頼こうじんを得て、根本道場として東寺や修行の道場として高野山こうやさんをたまわりました。

偉大な思想家であり、哲学者である空海は「弁顕密二教論べんけんみつにきやうろん」、「即身成仏義そくしんじやうぶつぎ」や「秘藏宝鑰ひぞうほうやく」など多くの著

作を残しました。また、平安時代の三筆と呼ばれる書の大家であり、土木・建築・鋳業・自然科学・医療などさまざまな分野に才能を発揮し、日本初の庶民のための学校「綜藝種智院しゆげいしゆちいん」を開校しました。

満濃池修築には、それまでにない独創的な設計とその人望で、復旧工事を完成させたことでも知られています。そして、承和2(835)年、高野山こうやさんで入定し、延喜21(921)年に「弘法大師」の諡号しこう(天皇が高僧におくる称号)が醍醐天皇から贈られました。



こうぼうだいしこうかい おもかげ 弘法大師空海の面影

弘法大師空海の御誕生所である四国八十八箇所霊場第75番札所総本山善通寺は、唐から帰った空海が父の名をとって寺号として創建した寺であり、そびえる大楠や金堂・五重塔がある東院がその場所に当たります。誕生院は鎌倉時代に空海が生まれ育った佐伯家の邸宅跡に建てられたものです。

総本山善通寺が父の菩提寺であれば、母の菩提寺は第72番札所曼荼羅寺まんだらじ。満濃池を修築した空海がその報奨金で建立したのは第74番札所甲山寺こうやまじ。空海の甥である智証大師円珍ゆかりの寺は第76番札所金倉寺こんそうじです。

幼い空海は五岳山に登り、心身共に修養を行い、仏に身を捧げる決意で第73番札所釋迦寺しゆつしゃかじの奥院「禪定ぜんじやう」から身を投げたという伝説も残されています。

弘法大師空海ゆかりの地ならではの「みちくさ遍路」に出かけましょう。



手前が東院、左奥に西院



総本山善通寺の
 配置図

真言宗善通寺派の総本山は 弘法大師空海御誕生所

弘法大師空海の御誕生所である善通寺は、屏風浦五岳山誕生院善通寺といい、真言宗善通寺派の総本山で、四国八十八箇所霊場第75番札所です。

唐から帰朝した空海が長安（現在の西安市）の青龍寺を手本に、大同2（807）年から弘仁4（813）年までの6年の歳月をかけて建立しました。父の名である「善通」にちなみ善通寺と名づけたと伝えられ、高野山の金剛峯寺や京都の東寺よりも早くに建てられた真言宗最初の根本道場です。

出土した瓦などから白鳳時代の前身寺院の存在が確認されており、当初は佐伯氏の氏寺であったと推測されています。その後は、幾度か荒廃、再建をくり返しましたが、永禄元（1558）年の戦火で堂塔伽藍はすべて焼け落ちました。しかし、高松・丸亀両藩の援助により次第に復興し、現在の姿に整えられました。

江戸時代までは、善通寺と誕生院のそれぞれが独立したお寺でしたが、明治時代になって一つの寺となりました。現在は総面積約45,000㎡におよぶ広大な境内に、「伽藍」と称される東院と「誕生院」と称される西院

があり、東西二院で総本山善通寺と呼ばれています。「伽藍」は創建時以来の寺域にあり、「誕生院」にある御影堂は空海が誕生した佐伯家の邸宅跡に建っています。



重厚な造りの南大門



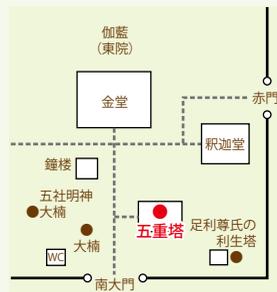
- 善通寺町三丁目3-1
- JR善通寺駅から徒歩約15分
- 境内は拝観自由。
- 戒壇めぐりと宝物館は8:00～17:00（有料）
- 金堂（本堂）の拝観時間や納経所は7:00～17:00
- 駐車場／有料（普通車300円）
- 問い合わせ／☎ 0877-62-0111



空に浮かび上がる五重塔



街の中に溶け込む五重塔



■ 善通寺町三丁目3-1
● JR善通寺駅から徒歩約15分

人々に愛されるシンボルタワー

善通寺市のシンボルである五重塔。このま
ちになくてはならない存在です。

五重塔はお釈迦様のお骨を納める舍利塔
です。弘法大師空海が創建した五重塔は延
久2 (1070) 年に大風で倒壊し、現在の塔
は4代目で明治35 (1902) 年に完成しまし
た。香川県に現存する五重塔の中で最も古く
建てられたもので国の重要文化財。三間四
方、1mの基壇に高さ43m、けやき造りの堂々
とした造りで、国内の木造塔としては東寺、
興福寺に次いで3番目の高さを誇ります。

一層内中央にはそれぞれ東は白象にのる
阿闍如来、南は馬にのる宝生如来、西は孔雀
にのる阿弥陀如来、北は金翅鳥 (迦楼羅)
にのる不空成就如来がまつられ、最上部の
五層目には大日如来を安置しています。

善通寺の五重塔の特徴は、すべての階の
天井が高く、人が立って歩けるようになって
いる点。以前は5階まで上がって眺望を楽し
んでいたそうです。また「懸垂工法」で心柱
が地面 (基礎の礎石) から浮いています。心
柱は五層目屋根裏で鎖を使って吊り下げら
れ、それ以外の周りの部材とは構造的につ
ながっていません。各層それぞれも完全に固
定されておらず、五つの箱を積み重ねたよう

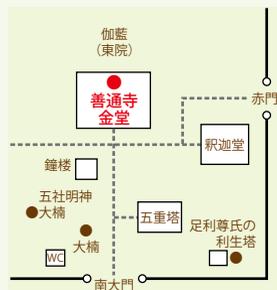
な構造になっていて、大きな地震が来たとき
は、各層がぐねぐねと揺れて、地震の揺れを
建物全体で吸収する「免震構造」になってい
ます。毎年、ゴールデンウィークには1階と
2階の内部が特別公開され、堂内が拝観で
き、心柱が礎石から浮いている状態を見るこ
とができます。昔の人の知恵が生み出した工
法をご覧ください。



街のどこからでも五重塔が見えます。



南大門から入ると正面に金堂があります。



- 善通寺町三丁目3-1
- JR善通寺駅から徒歩約15分
- 拝観時間/7:00~17:00

創建当時の姿を残した本堂

総本山善通寺の東院は赤門、南大門、中門の3つの門に囲まれ、創建当時にはこの位置に伽藍がらんがありました。現在の2倍以上の広さに15の大きなお堂が建ち並んでいたと推測されています。現在の東院の伽藍配置は創建当時を手本としています。貴重な姿を残す善通寺旧境内として国の史跡に指定されています。

南大門をくぐって東院に入ると正面に見えるのが金堂です。金堂は元禄12(1699)年に再建されたもの。桁行三間、梁間二間、一重もこしいりもやづくりかとうまど裳階付入母屋造で、正面と両側面には火灯窓(花頭窓)が配され、その上部には「ゆらぎ」の蓮子欄間が施されているという禅宗様の建築様式で、国の重要文化財です。

本尊は薬師如来坐像やくしにょらい。旧本堂は永禄の兵火で、空海自作と伝える本尊とともに焼け落ちましたが、仏師・北川運長の手によって生まれ変わりました。

金堂の周囲には創建当時の礎石が残されています。また、宝物館には創建期の本尊の頭部そぞう(塑造)が伝存しており、常設展示されています。金堂上層に掲げられた額は有栖川宮ありすがわのみやたかひとしんのうきごう熈仁親王が揮毫したものです。

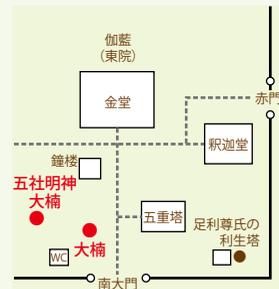
毎月8日には月例法要「薬師如来御法楽やくしにょらいごほうらく」が行われています。



善通寺の本尊は金堂内部の薬師如来坐像です。



【大楠】四方に張り出したみごとな樹



■普通寺町三丁目3-1
●JR普通寺駅から徒歩約15分

弘法大師空海誕生前から 生い茂っていた楠

総本山普通寺の境内には、県の天然記念物に指定された2本の大楠があります。南大門を入ってすぐ左手にあるのが大楠。その西北、五重塔を背に正面に見えるのが五社明神大楠です。

大楠は高さ約15m、幹の太さは地上1.5mのところでは11mもあり、大きく枝を伸ばしています。樹齢千数百年ともいわれ、弘法大師空海誕生の頃からすでに生い茂っていたようです。

一方、五社明神大楠は高さ約17m、幹の太さは地上2.3mのところでは10mの大きな樹です。五社明神は普通寺領の安泰を守る氏神

で、根元に社殿がまつられています。ともに長い年月にわたり、普通寺を訪れた人々に涼やかな木陰を提供してきました。

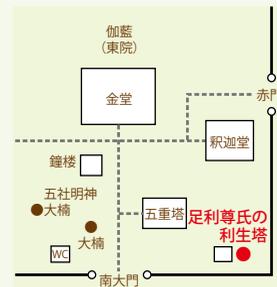
なお、クスノキは普通寺市の「市の木」でもあります。



【五社明神大楠】天を覆う姿は雄大そのもの

国家安泰を祈る もうひとつの五重塔

総本山普通寺東院の南東隅にある石塔は「足利尊氏の利生塔」です。暦応元(1338)年、足利尊氏・直義兄弟は夢窓疎石のすすめで、南北朝の戦乱による犠牲者の霊を弔い国家安泰を祈るため、日本60余州の国ごとに一寺一塔の建立を命じました。寺は安国寺、塔は利生塔と呼ばれ、讃岐では安国寺を宇多津の長興寺に、利生塔は普通寺の五重塔があげられました。利生塔は興国5(1344)年、普通寺の僧正・宥範によってもうひとつの五重塔として建てられましたが、焼け落ちた後、高さ2.8mの角礫凝灰岩の石塔が形見として建てられています。



■普通寺町三丁目3-1
●JR普通寺駅から徒歩約15分

近くには法然上人ゆかりの逆修塔があります。逆修とは生きている内にあらかじめ仏事を修め自らの死後の冥福を祈ることで、法然上人が普通寺に詣でた時に、後世の往生を祈って建立されたと伝えられています。このように普通寺の境内には、利生塔だけでなく、さまざまな歴史の痕跡が残されています。



境内の片隅に建っています。

懐かしいあの人の顔に出会う

五百羅漢とは、お釈迦様の入滅後の第1回、第4回の仏典編集会議に集まった人々がそれぞれ500人であったことから、この500人の聖者を指すといわれています。さまざまな顔かたちをした500人の中には、親しい人、懐かしい人に似た顔が必ずあるともいわれています。

総本山善通寺の金堂の中には、ご本尊のやくしにょらい薬師如来を囲むように五百羅漢がまつられていました。江戸時代後半につくられたもので、現存するのはそのうちの108体です。現在は御影堂の北にある護摩堂横の回廊に移されました。

東院の堀沿いにも石像の五百羅漢がまつられています。平成18(2006)年に創建1200年の記念事業の一環として建立されました。多くの人々の寄進により完成した五百羅漢は、それぞれ個性があり、何度見ても新たな発見があります。



周囲を囲む五百羅漢像



護摩堂の百八羅漢



- 普通寺町三丁目3-1
- JR普通寺駅から徒歩約17分



昔ながらの店構え。名物のカタパン。堅いけれど、クセになる味。

堅くてなつかしい
明治の味「カタパン」の店

総本山善通寺の東院と西院の間を通る南北の道は、江戸から明治にかけての街道の面影をわずかに残しています。この道沿いに熊岡菓子店があります。創業は明治29(1896)年。現在の建物は大正2(1913)年に建てられました。店の内外ともに当時のまま、現在も使われています。陳列ケースも昔から大事に使い続けた貴重品。中には懐かしい菓子が並べられています。

この名物は「カタパン」。理想的な軍事食糧として考案されたもので、創業当時は



- 普通寺町三丁目4-11
- 総本山善通寺御影堂から徒歩2分
- 営業時間/9:00~16:00
- 定休日/火曜・第3水曜
(定休日が祝日の場合は営業)
- 駐車場/あり
- 問い合わせ/☎0877-62-2644
- ※カタパンは午前中に売り切れてしまう場合あり

「兵隊パン」と呼ばれていました。現在のカタパンは小麦粉と砂糖を練りあげて焼き上げ、柔らかい食感に慣れている現代っ子には、びっくりするような堅さ。それでも口に含むと、いつまでもやさしい味が広がり、忘れられなくなります。「善通寺名物本家堅パン製造本舗」と書かれた紙袋も郷愁を誘います。

全国的にも有名になった「カタパン」ですが、えびやソラマメのせんべい、ポーロなど他の菓子類も童心に返ることができるうれしい味ばかり。

参詣のみやげに立ち寄る人も多いです。



誕生院の中心建物「御影堂」

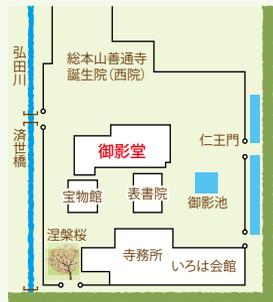
貴いお姿を伝える

弘法大師空海が生まれた佐伯家の邸宅跡に建てられた誕生院の中心建物が「御影堂」です。現在の建物は天保2（1831）年に建てられ、昭和12（1937）年に大規模な改修を行いました。

真言宗では空海のお姿を「御影」と呼び、それをまつる建物を「御影堂」と言います。延暦23（804）年、空海は留学生として遣唐使の一団に加わり、現在の中国に渡るようになります。それを聞いた母・玉寄御前は今生の

別れになるかも知れないとたいそう悲しみました。そこで、空海は両親のために池のほとりの松の木に登り、水面に顔を映し自画像を描き形見としました。画中の空海の背後には、我拝師山から出現する釈迦如来があらわされる善通寺独自の図様です。

後年、土御門天皇がこの自画像をご覧になった時に瞬きをしたので、「瞬目大師」の尊号を賜りました。それ以降、秘仏として堂内にまつられ、大師信者の厚い信仰を集めています。



- 善通寺町三丁目3-1
- JR善通寺駅から徒歩約17分
- 拝観時間／朝勤行～17:00



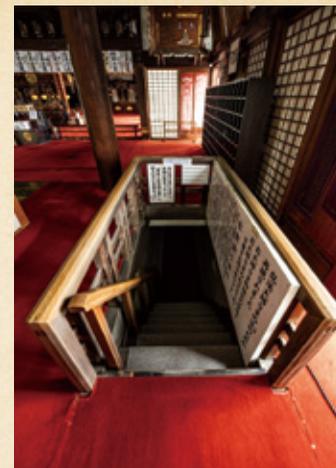
壮麗な内陣を垣間見る御影堂

かいだん 戒壇めぐり

再生の喜びにつながる

御影堂のある西院は、弘法大師空海が生まれた佐伯家の邸宅跡に建てられています。御影堂は、空海御誕生所として多くの人の願いを受け止めてきました。この地下にある全長約100メートルの通路を巡るのが「戒壇めぐり」です。漆黒の闇の中を進み、自己を見つめ直す精神修養の空間です。その中心には、空海の母・玉寄御前のお部屋があったと伝わり、空海が産声を上げ、母に抱かれて幼少期を過ごした場所です。

美しい仏さまが描かれた壁に左手を伸ばし、ゆっくりと進みます。やがて、大日如来像の光に出会い、お大師さまとご縁を結びます。どこからか、ひとりひとりの魂に語りかけるようなお声も流れてきます。心を浄化し、闇をぬけ、生まれ変わる感覚にふれるという「戒壇めぐり」です。



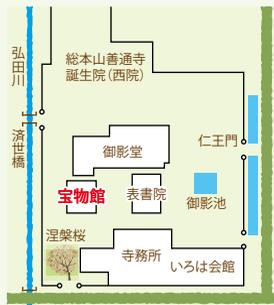
お大師さまのご縁を結ぶ戒壇めぐり

- 善通寺町3-3-1
- JR善通寺駅から徒歩約17分
- 拝観時間／8:00～17:00(受付は16:30まで)
- 年中無休
- 戒壇めぐり・宝物館拝観料／大人500円
小・中学生300円
- 問い合わせ／☎ 0877-62-0111

弘法大師空海の 御作・遺品も収蔵・展示

総本山善通寺は、昔から歴代の天皇の信仰も厚く、しばしば^{りんじ いんぜん}綸旨、院宣などの天皇ゆかりの品も寄せられ、また弘法大師空海の御作や遺品も残されています。そうした宝物が納められているのが宝物館です。明治40(1907)年に創設され、現在の建物は弘法大師生誕1200年記念事業として文化庁の指導の元、昭和47(1972)年に完成しました。

国宝の「^{こんどうしゃくじょうとう}金銅錫杖頭」、^{いちじいちぶつほけきょうじよぼん}「一字一仏法華経序品」をはじめ約2万点を収蔵し、そのうちの約30点が展示されています。



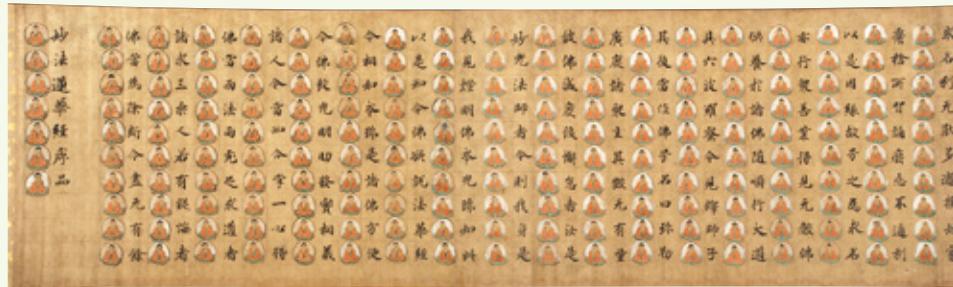
- 善通寺町三丁目3-1
- JR善通寺駅から徒歩約17分
- 拝観時間/8:00~17:00(受付は16:30まで)
- 年中無休
- 戒壇めぐり・宝物館拝観料/大人500円
小・中学生300円
- 問い合わせ/☎ 0877-62-0111



^{こんどうしゃくじょうとう}
金銅錫杖頭 **国宝**

錫杖とは僧侶などが持つ杖のことで、杖の先端の金属製の飾りの部分(長さ55cm)には、阿弥陀三尊像を中心に四天王の持国天、増長天を配し、裏面には阿弥陀如来と両脇侍の立像を広目天、多聞天が守護しています。中国唐時代の作で、空海が^{けいめいざり}恵果阿闍梨から授かり持ち帰ったものと伝えられています。

※通常は写真パネルによる紹介で、毎年6月13・14日に原品の特別公開を予定。



^{いちじいちぶつほけきょうじよぼん}
一字一仏法華経序品 **国宝**

全長21.2mの巻物に、法華経序品の1字ずつを空海が書き、その行間に如来像を1体ずつ空海の母・^{たまよりごぜん}玉寄御前が描いたといわれています。

※通常は複製本(コロタイプ印刷)の展示。毎年11月3日に原本特別公開を予定。



^{ちごだいらいりゅうざう}
稚児大師立像

江戸時代
空海幼少時代(真魚)のお姿



^{きっしょうてんりゅうざう}
吉祥天立像

国重要文化財

平安時代
(10世紀末~11世紀前半)



^{じぞうぼんざつりゅうざう}
地藏菩薩立像

国重要文化財

平安時代
(11世紀後半~12世紀初頭)

一足早く春を告げる^{ねはんざくら}涅槃桜

宝物館西側の弘田川沿いの堀ごしには、独特の甘い香りを漂わせて咲く、珍しい桜の木があります。ソメイヨシノよりも早く3月初旬につぼみが膨らみはじめ、満開の時期がお釈迦様の入滅した（涅槃）旧暦2月15日（現在の3月上旬）に近いことから、「涅槃桜」と呼ばれています。

この桜の品種名はミョウショウジザクラ。昭和48（1973）年の弘法大師生誕1200年を記念して、桜の発見地である新居浜市の明正寺から贈られた貴重なものです。総本山善通寺に春を告げる花として、毎年開花が待ち望まれています。

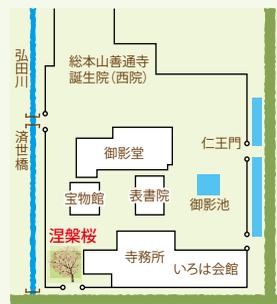


春を告げる涅槃桜

濟世橋に続く駐車場の北にもあり、春にはその色と香りで参詣に訪れる多くの人を魅了します。毎年、総本山善通寺や善通寺市のホームページで開花のニュースが掲載されます。



満開の涅槃桜



- 善通寺町三丁目3-1
- JR善通寺駅から徒歩約18分



丸く盛り上がった橋を渡って総本山善通寺の西院境内に入ります。

弘法大師空海も渡った

らくよう
洛陽の都の橋を再現

総本山善通寺の西側を流れる弘田川に架かる橋です。善通寺の駐車場からは、この橋を渡って西院に入ります。昭和53（1978）年、弘田川の改修工事に合わせて架け替えられました。

その際、中国の天津橋を模して石のアーチ橋としました。天津橋は607年、隋の煬帝が洛陽城を築いた際、正面に流れる洛水を天の川に見立てて「天津」と名づけたといわれてい



- 善通寺町三丁目3-1
- JR善通寺駅から徒歩約18分

ます。東洋最古の石のアーチ橋で、その形から「天津曉月」とも呼ばれ、空海も渡ったといわれています。「濟」の字には「渡す」という意味と「救う」という意味があります。世を救うことを決心した空海が渡った橋を再現しています。

橋の欄干には、密教の布教に貢献した空海を含む真言八祖の名号を表す種子（梵字）が刻まれています。



空海の母をまつる曼荼羅寺



- 吉原町1380-1
- JR普通寺駅から車で約10分
- 納経 / 7:00~17:00
- 駐車場 / 有料 (普通車200円)
- 問い合わせ / ☎ 0877-63-0072



笠松大師

弘法大師空海の母の

菩提寺である72番札所

普通寺詫間線の吉原公民館の交差点を南に入り案内表示に従って進むと、四国八十八箇所霊場第72番札所の曼荼羅寺があります。曼荼羅寺は我拝師山延命院がはいしさんえんめいいんと称され、創建は四国霊場の中でも最古に属する飛鳥時代の推古4(596)年。最初は弘法大師空海よさかであらの一族である讃岐の領主佐伯家の氏寺として世坂寺と呼ばれていました。

その後、唐から帰った弘法大師空海は、父の菩提寺として普通寺を建立。続いて母・玉依御前の菩提寺としてこの寺を建立したと伝えられています。その後、荒れ果てた寺は康平5(1062)年頃から旅の僧によって修復されましたが、室町時代末期に兵火で再び焼失。文禄(1592~1596)年間に丸亀藩主生駒氏の家老が修復し、貞享9(1692)年に本堂が再建されました。現在の本堂は、明治19(1886)年の改築によるものです。

1,500坪を超える敷地には、本堂、大師堂、護摩堂、観音堂などが建ち並んでいます。本尊はこまどう大日如来。観音堂にまつられた聖観音立像は県の指定文化財です。

境内には空海のお手植えの不老松と呼ばれる樹齢1,200年を超える笠松がありまし

た。県の自然記念物にも指定され親しまれていましたが、平成13(2001)年秋から平成14(2002)年春にかけて、松くい虫の被害で枯れてしまいました。現在はその不老松の幹に空海を刻んだ「笠松大師」が安置されています。

そのほかにも境内には、西行法師が昼寝をした「西行の昼寝石」や西行が笠をかけたという「笠掛桜」があり、また遍路道標を最初に建てたという真念の「しるべ石」も移設されています。



県指定文化財の聖観音立像。158cmの檜一木造りで、平安時代後期の作です。

西行も眺めた風景に会える

丘の中の小さな庵 いおり

まんだらじ しゅつしやかじ
曼荼羅寺と出釋迦寺を結ぶ道の中ほどから、火上山に向かう標識を目印にみかん畑を上っていくと、丘の中腹に、平安時代の歌人、西行の滞在した西行庵（山里庵）があります。

西行法師が四国を訪れたのは仁安2（1167）年、50歳の時でした。善通寺では玉泉院の久松庵とこの山里に庵を構えました。当時住んでいた小さなお堂は朽ち果ててしまいましたが、その後3回再建されました。最近では、昭和63（1988）年に吉原郷土研究会と地元住民有志により再建され、平成元（1989）年の西行800年忌とともに落成式を行いました。小さな石の橋を渡ると竹やぶの中に二間四方の小さな庵があります。傍らには西行法師の2つの歌碑と西行法師をしのぶ中河与一作の歌碑がひっそりと建っています。

さいぎょうほうし
西行法師

西行法師は平安時代末期から鎌倉時代初期の歌人で、「新古今和歌集」には94首もの歌が収められています。俗名は佐藤義清のりきよといい、平将門を討った藤原氏の子孫として富裕な武門の家に生まれ、若くして鳥羽院の北面の武士となりました。院に目をかけられますが、23歳で突然に出家します。しばらくは吉野山の麓などにも住み、のちに高野山に入山しました。

50歳の初めには、すくとじょうこう
崇徳上皇の墓参りと弘法大師空海の遺跡をたどり四国へ旅をします。そこで讃岐の地に入り、空海の御誕生所である善通寺のほど近くに庵を結びました。建久元（1190）年、享年73歳で亡くなりましたが、「願はくは花の下にて春死なん そのきさざぎの望月のころ」と詠んだ和歌のとおりで、藤原定家や慈円に崇敬されました。歌集に「山家集」があり、弟子が筆録した「西行上人談抄」も残されています。

「山里に人来る世とは思わねど
とはるることのうとくなり行く」



竹やぶの中にひっそりと建っています。



■吉原町三井之江
●出釋迦寺から徒歩約13分

いきのきだいまょうじん
生ノ木大明神

西行庵から東へ100mほど下ったところに、生ノ木大明神があります。座高30cmほどの衣冠束帯姿をした木造の公達座像が、祭神としてまつられています。この神像は、西行法師がこの地に来たときに背負っていた「背仏さん」だともいわれています。地元の人によって拝殿が建てられ、大切に守られてきました。



生ノ木大明神



弘法大師空海作と伝わる本尊をまつる本堂



弘法大師空海像と共に讃岐平野を眺望する

しゃかによらい 釈迦如来が現れたという 伝説にちなむ寺

がはいしさん
我拝師山の山裾にあるのが、四国八十八箇所霊場第73番札所のしゅっしゅかじ出釋迦寺です。我拝師ぐもんじいん山求聞持院と称され、しんこんしゅうおむろほ真言宗御室派の寺院です。本尊は弘法大師空海の作になる釈迦によらい如来で、こくうざうぼさつ虚空蔵菩薩も安置されています。

我拝師山は昔、わしのやま倭斯濃山といわれていました。寺のいい伝えによれば、空海がまお真魚と呼ばれていた7歳の時にこの山で修行を積み、「私は将来仏門に入り、仏の教えを広めて多くの人を救いたい。私の願いが叶うなら釈迦如来よ、姿を現したまえ。もし叶わぬのなら一命を捨ててこの身を諸仏に捧げる。」と断崖絶壁から身を投げました。すると釈迦如来が天女を連れて現れ、幼い大師は抱きとめら



高台にある出釋迦寺

れて崖の上に返されたそうです。空海は四国八十八箇所霊場をつくる時に思い出のこの山に登り、釈迦如来を自ら刻み寺を建立して出釋迦寺と名付け、山の名を我拝師山と改めました。300年ほど前までは山頂が札所になっていましたが、今は麓にあります。現在の本堂は天明2(1782)年に建てられたものです。



- 吉原町1091
- 曼荼羅寺から徒歩約5分
- 納経/7:00~17:00
- 駐車場/あり
- 問い合わせ/☎ 0877-63-0073



眼下にはすばらしい景色が広がります。
弘法大師空海が幼少期に身を投げた伝説が残る場所。



雲に覆われると、水墨画の様な景色です。



- 吉原町979
- 出釋迦寺から登山道を登って徒歩約40分
- 問い合わせ ☎ 0877-63-0073

「天空の鐘」が鳴り響く奇跡の場所

出釋迦寺から我拝師山の山道を1.8kmほど登ると、山頂近くに出釋迦寺の奥の院、禅定ぜんじょうがあります。さらに100mほど登った場所が、弘法大師空海が7歳の時に身を投げたという伝説の捨身ヶ嶽しゃしんがだけです。そそり立つ絶壁の上に石の護摩壇ごまだんと稚児大師像がまつられています。この捨身ヶ嶽への登山道は世坂せさかと呼ばれ、旧暦15日には県内外から奥の院に上る信者でにぎわいます。登山道の道路脇には、香川県の保存木であるヒノキの大樹がそ

びえます。幹囲3.3m、樹高23m、枝は東西に16.8m、南北に13mも広がります。根元には大きな石の地蔵が置かれ、小石が積み上げられています。先に進むと、道の左側には「柳の清水」があり、登山者の喉を潤してくれます。そして山門にたどりつくと、眼下にはすばらしい景色が広がります。

この絶景を見ながら鐘をつくことができる鐘楼は、「天空の鐘」と呼ばれるようになりました。山道をたどり、一度は響かせてみたい山のお寺の鐘の音です。



夕方には街も海も山もオレンジ色に染まる。絶景と「天空の鐘」が待っています。



薬師如来を本尊とする甲山寺



- 弘田町1765-1
- JR普通寺駅から車で約10分
- 納経/7:00~17:00
- 駐車場/あり
- 問い合わせ/☎ 0877-63-0074

まんろう 満濃池の修築により 建てられた寺

総本山善通寺から弘田川沿いに北へ向かうと甲山寺に着きます。医王山多宝院甲山寺は四国八十八箇所霊場第74番札所で、真言宗善通寺派の所属寺院にあたります。本尊に薬師如来、洞穴に毘沙門天がまつられています。

西讃府志によると、弘法大師空海が満濃池を修築した功績で朝廷から賜った報奨金の一部を充ててこの寺を建て、空海自ら本尊を刻んでまつりました。寺の伝えによれば、満濃池修築以前に、空海が曼荼羅寺と善通寺の間に寺を建てたいと場所を探していると、甲山の麓の岩穴から翁が現れ、この地

に寺を建てるように告げました。空海は感激して毘沙門天の石像を刻み、岩穴にまつたといわれています。

残念ながら当初の寺は天正年間に全焼し、その後、元禄(1688~1704)年間から復興・再建をくり返してきました。

ご本尊の薬師如来の脇侍である月光菩薩は左手に月を持ち、その中にウサギが描かれています。それにちなみ、境内には大門と中門、茶堂の瓦の上などに16匹のウサギが愛らしい姿を見せています。江戸時代末期に造られた山門の屋根からもウサギがのぞき、ウサギにちなんだお守りやおみくじもあります。今では、ウサギ寺としても知られる甲山寺です。



参拝者に親しまれているウサギ

城跡やミ二西国33ヶ所のある 小さな山

甲山は、筆ノ山の北にある小さな山で、善通寺詫間線が朝比奈運動公園市営野球場のところで大きく曲がる角に位置します。山の形が古代の兜に似ているので、甲山という名前がついたといわれています。

甲山には、戦国時代、天霧山城主香川氏の武将として名をはせた朝比奈弥太郎氏の居城・甲山城がありました。頂上に残っている

五角形の平地が城郭の中心といわれています。永禄元（1558）年、三好実休が香川氏を攻めた際、弥太郎は甲山南麓で戦い190人を討ち取りましたが戦死し、甲山を南に下りた平地に塚と石塔を築いて埋葬されました。そこは朝比奈塚と呼ばれていましたが、市営野球場の建設に伴い、現在は南側の不動院智光寺のあたりに墓は移されています。

甲山寺からの登山道に入ると、江戸末期に庶民に広まった西国三十三所をまねた「ミ二

西国33ヶ所」が置かれています。頂上には、明治時代に建立された神武天皇・孝明天皇と刻まれた石碑も鎮座します。

甲山の西には春日神社があり、南東の麓からは弥生時代の土器や石器、銅鏡片などが出土しました。太古からの歴史を秘めた甲山です。



●甲山寺境内に登山口がある。
登山口から山頂まで徒歩約15分。



東から眺める甲山



古代の兜のように見える甲山

乃木将軍にもゆかりのある

ちしょうだいし
智証大師の寺

けいそくざんほうどういんこんどうし
鶏足山宝幢院金倉寺は、四国八十八箇所霊
場第76番札所。天台寺門宗の園城寺の末寺
で、本尊は薬師如来、脇に日光・月光両菩薩
を安置しています。また、鎌倉時代の作で国
の重要文化財の「絹本着色智証大師像」と室
町時代の作で市の指定文化財の「絹本着色
両界曼荼羅」を所蔵しています。

古くは景行天皇の血筋を引く和氣宅成が、
宝亀5(774)年に父が建てた仏殿を譲り受
け、道善寺と名付けたのが始まりといわれて
います。その宅成の子として弘仁5(814)年
に誕生したのが、智証大師(円珍)です。小
さい頃から利発で、やがて天台宗比叡山延暦寺
の第5代座主となりました。

その円珍が唐から帰り、原田の里にあった
道善寺を御誕生地・金倉郷に移転しました。
その後、延長6(928)年に金倉寺と名前が
改められたと伝えられています。当時は、南
北8km、東西4kmの広大な敷地に132院も
建っていましたが、天文6(1537)年の兵火
によって全焼しました。現在の伽藍は17世紀
中頃、高松藩主松平頼重公によって再興され

たものです。

明治になると、旧陸軍第11師団長の乃木
希典が宿舎にしていたことから、寺には乃木
将軍が使っていた文具や軍帽などの遺品が大
切に保存されています。



「訶利帝母尊」は鬼子母神と
しても知られる子どもと女性
の守り神で、円珍の守護神と
して知られ、地元では「おか
るてんさん」として親しまれ
ています。



- 金蔵寺町1160
- JR金蔵寺駅から徒歩約5分
- 納経/7:00~17:00
- 駐車場/有料(普通車200円)
- 問い合わせ/☎ 0877-62-0845



現在の金堂は昭和58(1983)年に落慶されました。

ちしょうだいし えんちん
智証大師(円珍)

円珍は、弘仁5(814)年、那珂郡金倉郷(現
在の普通寺市金蔵寺町)で生まれました。父は
和氣宅成、母は佐伯氏の出で弘法大師空海の妹
にあたります。15歳で比叡山に登り、天台座主の
義真に師事、法名を円珍とし、12年間山にこも
って修行を積みました。天子の命令によって、知徳
の高い僧侶に賜る称号「禪師」を得て、皇室で
教えを説くようになりました。

仁寿元(851)年に唐に渡り、梵字悉曇(サン
スクリット語やインドの言葉)、台教・密教など
を学び、天安2(858)年に帰国。翌年に園城寺
に唐院をつくり、唐から持ち帰った法具などを
収蔵しました。貞観6(868)年に延暦寺の第5
代座主に任ぜられ、園城寺を賜り天台寺門宗の
開祖となりました。

教えを説いた弟子は100余人にのぼり、
円仁、安然らとともに天台密教の歴史に偉大な
業績を残しました。「法華論
記10巻」、「大
日教指帰」な
ど多くの著書
があります。寛
平3(891)年
に入定され、
延長5(927)
年に諡号とし
て「智証大師」
が贈られました。



智証大師(円珍)像

明治の気風を今に伝える

金倉寺本堂脇にある松の木は「乃木將軍妻返しの松」と呼ばれ、乃木將軍の厳格な軍人らしいエピソードを今に伝えています。

乃木將軍が旧陸軍第11師団長に就任した明治31(1898)年の大晦日、乃木將軍の妻である静子夫人が東京から訪ねてきました。その日は雪が降り、夫人が到着した夕方頃はすでに薄暗くなっていました。取り次ぎの小僧の妙栄坊が急いで乃木將軍にお伝えしましたが、「別に会う必要はないでしょう。」との一言で、夫人は追い返されてしまいます。その帰り道、静子夫人が思案顔でたたずんでいたのが、この松の木の下でした。この話は明治の軍人氣骨と明治女性の姿を今に伝える逸話となり、夫人がたたずんだ松は、いつの頃から「乃木將軍妻返しの松」と呼ばれるようになりました。

そんなエピソードを秘めて3代目の「乃木將軍妻返しの松」は、時代の変遷を見守っています。



枯れた初代に代わり青々と茂る3代目の妻返しの松



- 金蔵寺町1160
- JR金蔵寺駅から徒歩約5分。
金倉寺境内にある。

人々に守られてきた、
智証大師が産湯につかった泉

市の北東、春日団地の西側に、智証大師(円珍)が産湯につかったと伝えられる泉があります。「円珍産湯之井縁由」によると、弘法大師空海えんちんろうぶゆのいえんゆの妹にあたる母が円珍を身ごもった時に「大洋を航海中に朝日の昇るのを仰ぎ見て光り輝く太陽をその手にしたところ、太陽が口の中に飛び込んできた」という夢を見ました。才能にめぐまれた円珍は、のちに天台寺門宗の開祖となります。



泉の一角はきれいに整えられています。

この泉は、庄屋の真光氏をはじめ代々の土地の人々に大切に守られてきました。明治5(1872)年まではここに仏名寺があり、円珍の像がまつられていましたが、現在、その像は木徳町にある玉泉院金林寺にまつられています。



- 原田町848-1
- JR金蔵寺駅から徒歩約25分。
春日団地の西側。

ふるさとの壮大な歴史にふれる

ふるさとの貴重な文化遺産を展示している「善通寺市立郷土館」は、1962年に市庁舎敷地内に開館しました。その後、旧善通寺偕行社などへの数回の移転を経て、2023年に善通寺市総合会館「ZENキューブ」の2階にリニューアルオープンしました。

「考古展示室」は、旧石器時代から近代までの地域の歴史が、考古資料約600点や写真によって、わかりやすく学ぶことができます。例えば、仙遊遺跡から出土した弥生時代の人の顔が描かれた石棺や、陣山遺跡から出土した銅剣、金銅製冠帽こんどうせいかんぼうをはじめとする王墓山古

墳から出土した多種多様な副葬品の数々、史跡有岡古墳群の積石塚古墳や線刻壁画などは貴重で珍しく、古代から讃岐の重要拠点であった善通寺市の壮大な歴史に触れることができます。

「民俗展示室」では、江戸時代以降、明治、大正、昭和初期と、まちが大きく発展したころに使用された民俗資料約200点を展示。米作りや農家の副業など日常生活用具から、映画館や師団関連用品など、このまちの特徴的な資料も展示しています。

まちのルーツが見えてくる郷土館。ぜひとも立ち寄ってみましょう。



- 文京町二丁目1-4
- 旧善通寺偕行社から徒歩約1分
- 見学時間 / 10:00～16:00
- 休館日 / 月曜・年末年始
- 入館料 / 無料
- 問い合わせ / ☎ 0877-63-6329



善通寺市立郷土館エントランス



考古展示室



王墓山古墳出土金銅製冠帽



仙遊遺跡から出土した人の顔が描かれた石棺



民俗展示室



陣山遺跡から出土した銅剣

弘法大師空海の
祖先とも言われる王の墓

市街地をぬけ、善通寺大野原線を西に進むと右手に見えるのが王墓山古墳。古墳のまわりを巡ることも、登ることもできる史跡公園です。頂上からは市街地に溶け込む五重塔や、天気の良い日には瀬戸大橋まで見渡すことができます。

古墳のまちでもある善通寺市では、大小約400基もの古墳があったとされています。その中でも有岡古墳群は、善通寺市の王家の谷と呼ばれ、歴代の首長の墓と推測される古墳が集まっており、国の指定史跡になっています。その有岡古墳群の中央部に位置するのが王墓山古墳です。

6世紀前半に造られた王墓山古墳は、全長46mの前方後円墳。横穴式石室を持ち、石室からは須恵器などの土器類、首飾りなどの装飾品、武具・馬具類、大和政権が地方の有力豪族に渡したのではないかと推定される金銅製冠帽や銀象嵌を施した鉄刀が出土しています。これらは貴重なものばかりで、市立郷土館に展示されています。

4月29日の「古墳の日」には石室内も一般公開されます。



王家の谷ともいわれる有岡古墳群の中央部にあります。



出土した金銅製冠帽(左) 復元模型(右)



横穴式石室の内部。この地域には珍しい石屋形があります。



- 善通寺町1785-1
- JR善通寺駅から車で約10分
- 駐車場／あり

全国でも珍しい積石塚の前方後円墳

鶴ヶ峰の南の麓にある樽池のほとりの大型案内板を目印に、大麻山に向かって林道を上がっていくと、標高約400mあたりに直径200mの平坦地があり、その一角に野田院古墳があります。

野田院古墳は、3世紀後半に造られた全長44.5mの前方後円墳です。前方部は長さ23.5m×最大幅13m×高さ約1.6mで、盛り土をした後に表面に石を置き、後円部は直径21m×高さ約2mで石だけを積んで造った「積石塚」です。

平成9（1997）年からの発掘調査では、それまで確認されていた堅穴式石室の他にもうひとつの石室が発見され、ガラス玉や鉄剣、土師器などが出土し、古墳の周囲からも朱色に塗装した壺形土器が数多く出てきました。これらの出土遺物や墳丘の形状などの特徴から、最も古い時代の古墳と考えられます。また、中世には野田院という山岳仏教寺院があったといわれています。全国的にも珍しい積石塚古墳の美しい墳丘が復元整備されています。

現在は、周囲に野田院古墳を眺める展望台があり、市街地や美しい五岳山の全景を見ることができます。また、天候が良い日には、瀬戸内海の島々や遠くはしまなみ海道まで見渡すこともできます。



展望台からの眺望



出土品（ガラス製小玉と碧玉製管玉）



整備前の野田院古墳



- 普通寺町2830-196 (大麻山)
- JR普通寺駅から車で約30分。大麻山キャンプ場の隣。
- 駐車場／あり

珍しい線画が描かれた装飾古墳

王墓山古墳を過ぎて大池のほとりをさらに西に進むと、善通寺大野原線沿いに古墳公園として整備された宮が尾古墳があります。7世紀初頭に造られた円墳で、長さ9mの横穴式石室を持ちます。

宮が尾古墳が発見されたのは昭和41(1966)年1月で、当時は古墳全体が土に埋もれていましたが、地上でみかん畑を耕作しているときに、偶然地面に石室につながる穴が見つかり、古墳が発見されました。このときの古墳の調査で、石室の壁面には細い線で刻まれた線刻画があることがわかりました。

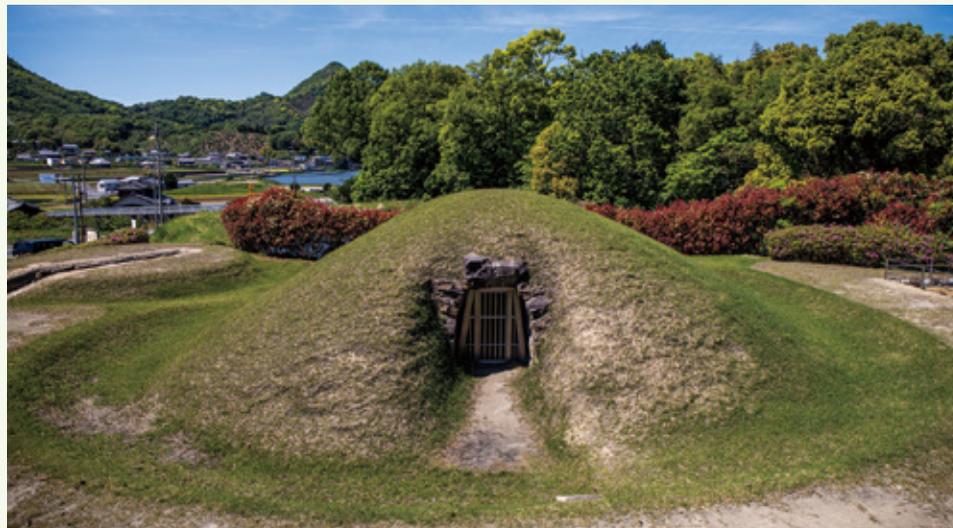
このような線刻画の装飾古墳は全国でも珍しく、四国では香川県でしか確認されていません。線刻画の絵は、玄室(棺を納める部屋)の奥の壁に人物群、馬に乗る人物、船団などが克明に描かれています。この人物群は身分の高い人が亡くなった時に本葬の準備が整うまでに行われた殯の儀式の様子を描いたものと考えられ、全国的にも注目されています。また玄室の側壁には、かぶり物をして剣を持つ武人像が描かれています。宮が尾古墳の前の時代に造られた王墓山古墳では冠帽や

鉄剣、馬具が出土しているため、武人像や馬に乗る人の絵は、当時地域を治めていた豪族の姿を描いているのかもしれませんが。

宮が尾古墳のすぐ隣には宮が尾2号墳があります。こちらは平成6年度から実施された宮が尾古墳保存整備のための発掘調査中に、石室の石材が僅かに残っている状態で発見されました。2号墳の線刻画は、羨道側壁の石材の間を埋める小さな石に、はしご状の絵が見られるのみでしたが、この絵は驚いたことに、宮が尾古墳の墳丘の盛土中から発見された割れた線刻石材と一致することがわかりました。この状況から、2つの古墳は同時に造られており、そのときに割れた線刻石材をそれぞれの古墳で利用していたことがわかりました。

通常は石室には入れませんが、公園内には詳しく解説したパネルや壁画、石室の実物大模型などが展示されています。

4月29日の「古墳の日」には石室内も一般公開されます。



全国でも珍しい線刻画のある装飾古墳



「古墳の日」特別公開。石室に入って見学できます。



線刻画「船に乗る人々」



耳飾りが浮き彫りにされた
美しい石棺

割竹形石棺とは、竹を縦に2つに割ったような形をした身と蓋とに分かれる石棺で、合わせると円筒形になります。

石棺が出土したのは生野町の磨臼山古墳。有岡古墳群の中の1基であり、大麻山から平野に突き出した磨臼山の尾根上に立地する前方後円墳で、古墳時代前期末頃に築造されたと考えられています。

磨臼山古墳から出土した割竹形石棺の発見は古く、江戸時代の記録に土取りの最中に見つかったことが記されています。このとき石棺の中には貴重品の朱に包まれた骸骨があり、村人は名のある人物の墓だろうと考えて再び埋め戻しましたが、その後盗掘を受けて朱や鉄剣・玉などが持ち去られてしまい、村人は災いを恐れて祠を建ててまつたとのこと。

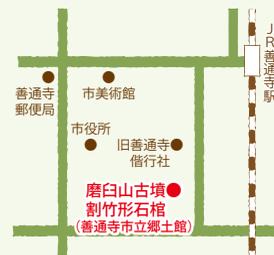
この石棺は長さが約2m、幅90cm程の大きな石材をくり抜いて造られており、石材は高松市国分寺町にある鷲ノ山産出の角閃安山岩が使用されています。同じ石材を用いた石棺は、県内の有力な首長の古墳や、遠くは

海を越え大阪府柏原市の古墳まで運ばれており、被葬者を安置する重要な道具となる石棺に同じ石材を利用した地域は、势力的に深い繋がりがあったのかもしれませんが。

石棺の中を見ると被葬者の頭部の位置に石枕が造り出され、両耳の位置に勾玉の耳飾りが浮き彫りにされています。非常に精緻な加工が施されており、ほかにも棺内や身と蓋の合わせ面なども丁寧な造りとなっています。この石棺は、造りの優美さに古墳時代の加工技術の高さをうかがい知ることができるため、国の重要文化財に指定されました。現在は善通寺市立郷土館のあるZENキューブ1階に展示されています。



ZENキューブの1階ロビーに、割竹型石棺保管・展示室があります。



- 文京町2-1-4
- 旧善通寺偕行社から徒歩約1分
- 見学時間 / 10:00~16:00
- 休館日 / 月曜・年末年始
- 入館料 / 無料
- 問い合わせ / ☎ 0877-63-6328



綺麗な石枕と耳飾りの浮彫り



農道からすぐ見える岡5号墳(右)と6号墳(左)



みかん畑の丘の あちこちに点在する古墳群

大麻山東側の畑や山林の中に大小合わせて9基、6世紀後半から7世紀前半の円墳が密集しています。

畑の中で隣り合って所在する岡5号墳と6号墳は、ともに横穴式石室が開口している姿を見ることができます。この古墳群の石室のいくつかには宮が尾古墳と同様の線刻画が発見されています。葬送儀礼で線刻画を描く文化が定着していたようです。

グリーンラインハイキングコースの上りルー

トにも多数の古墳があり、地元の話では戦争中の開墾で、山裾にあった多くの古墳をそれと知らずつぶしてしまったということです。



岡5号墳墳屋の線刻画

当時では最新鋭の 金銅製馬具が発見された古墳

菊塚古墳は市街地の西部、大池の北側にある6世紀中頃(古墳時代後期)の前方後円墳です。王墓山古墳から直線で約400mの距離にあります。市教育委員会の調査によって周溝と横穴式石室が発見され、石室内からは王墓山古墳と同様の石屋形いしやかたが見つかりました。石屋形とは、石室内をさらに部屋で囲うもので、肥後地方(熊本県)などに見られる古墳の特徴といわれています。

副葬品としては、刀ややじりなどの武器、大量の玉類、須恵器や土師器はじきなどが見つかりました。特に器台付装飾壺には、雄と雌の鹿



発掘調査で見つかった横穴式石室

の像が乗っており、今にも動き出しそうなほど写實的に作られています。さらに、王墓山古墳と同様に豪華な金銅製馬具も発見されました。

菊塚古墳の築造年代は王墓山古墳の次時代の頃で、丸亀平野一帯を治めていた、身分の高い人の墓と考えられます。後円部墳頂には、菊主神社がまつられています。

出土した
器台付装飾壺

- 普通寺町1595-1
- 王墓山古墳から車で約3分。大池の土手東側の道を約100m下ったところ。

水面に静かな影を落とす
石舞台のような古墳

「普通寺五岳の里」市民集いの丘公園のすぐ西にある大塚池。筆ノ山と我拜師山に守られ、山の緑を映す美しい池ですが、この池の中に巨大な岩を組み合わせて造られた横穴式石室のある吉原椀貸塚古墳があります。6世紀末から7世紀初頭に造られたと考えられています。石室の全長は約13m、玄室の長さ6.2m、同幅2.5m、同高2.75m以上、羨道の長さ6.6m、同幅1.7m、同高2.0mのとても大きな横穴式石室が見られます。このあたりを治めていた豪族の首長のお墓だといわれ、



水の中の巨石古墳

かつての盛り土が失われて石室が露出した姿は、奈良の石舞台古墳にも似ています。大塚池古墳とも呼ばれ、満水時にはほとんど水没してしましますが、水面に影を落とす巨石の姿は静かな威厳に満ちています。近くには、天水分神、国水分神など7神をまつる水分神社あまつくにつもあり、古くから信仰の対象であったようです。

吉原椀貸塚古墳がある大塚池周辺は水の風景を楽しむ大塚池水辺公園として整備されました。この古墳には、「もてなしの折りにお膳の椀が足りなくなり、この塚に詣でて椀を借りていった」という伝説があり、周辺には椀貸伝説を記した標識や古墳のレプリカがあります。



- 吉原町(大塚池内)
- 「普通寺五岳の里」市民集いの丘公園のすぐ西にある大塚池の中

白鳳時代創建の
佐伯氏先祖の寺院跡

多度津普通寺線と普通寺詫間線の交差点の近くにある細長い土地の一角に墓が立ち並んでいます。ここに伝導寺(伝燈寺)跡とも呼ばれた仲村廃寺の礎石らしいものが残されています。

仲村廃寺についての正確な記載は残されていませんが、出土した瓦などから、白鳳から奈良時代の前期にかけて創建された佐伯氏の氏寺と考えられています。白鳳時代の瓦は普通寺の前身となる寺院からも出土しますが、昭和58(1983)年の発掘調査によって、仲村廃寺は古代の地割と方位がまだ一致しな



仲村廃寺の礎石と考えられる石

い頃の建物であることがわかり、普通寺前寺よりも古く建てられたものと推測されています。

すぐ近くの練兵場跡からは弥生時代の大集落遺跡「旧練兵場遺跡」が発見され、弥生時代の建物跡や土器、石器、装飾品、青銅器などが多数出土しています。その面積は推定約50万㎡もあり、吉野ヶ里遺跡に匹敵する規模です。その後も古墳時代まで集落が営まれ、付近にはホトギ塚、伝導寺古墳、遊塚など10基ほどの円墳があることから、一帯は弥生時代から数百年にわたり重要な土地だったことが推測されます。その一角に当たる場所に建てられたのが仲村廃寺です。



- 普通寺町七丁目
- JR普通寺駅から徒歩約15分

こんびら参りの人々で にぎわった街道の休憩所

普通寺綾歌線と丸亀三好線との交差点を東に進み、最初の交差点を北に入ると、左手に黒住教と北集会場の建物があります。ここに与北の茶堂がありました。

この場所は丸亀から金毘羅街道のなかほどにあり、こんびら参りが盛んだった江戸時代から、旅人が弁当を食べたり休んだり、世間話をしたりする休憩所でした。金毘羅参詣を記した書物や絵図にはその様子が紹介されています。

敷地内には、馬に乗るための騎乗石や印瓦しるしがら（こんびらさんの印が入った瓦）、「丸亀入口迄是ヨリ七十五丁」と書かれた石の道しるべが残っており、文政11（1827）年に寄進されたという丸亀街道最大の金毘羅灯籠もあります。用水路の北の角にも金毘羅大権現への奉納灯籠と「七十丁」と彫った道しるべが立っています。

普通寺には、丸亀街道のほかにかんびらさんに魚などを運んだ「さかな街道」、多度津に上陸した人々がこんびらさんに向かった多度津街道もあり、旅の人々でにぎわっていました。



現在の建物は黒住教と北集会場です。



大きな金毘羅灯籠。一度倒壊しましたが、地元の人々の手によって復元しました。



- 与北町692
- JR普通寺駅から車で約7分。
ここから南へ向かう道が昔の金毘羅街道。



豊かな緑に包まれた境内

あめのふとだまのみこと ひこほににぎのみこと
天太玉命と彦火瓊々杵命を

まつった神社

大麻琴平買田線が琴平町に入手前、JR土讃線の線路を渡り西に入ったところに大麻神社があります。今から1900年あまり前の景行天皇の時代、忌部氏が付近を開拓して麻を植え、祖先神の天太玉命をまつたのが始まりだと伝えられています。延喜式にも名を残す古い神社で、戦国時代に兵火で社殿を焼失しましたが、寛文元（1661）年、丸亀藩の京極高和が再建しました。

主神の天太玉命座像と、彦火瓊々杵命座像は、国の重要文化財に指定されています。



- 大麻町241
- JR普通寺駅から車で約15分

あめのふとだまのみこと
天太玉命座像は檜材の一木造りで肩をいからせ怒った表情をしていて、彦火瓊々杵命座像は檜材の一木造りで穏やかな顔をしています。作者は異なると思われるが、ともに平安後期の作です。

また、約7,800㎡の広大な社叢はシリブカガシを主体に蔓性植物やシダ植物が加わったもので、県の自然記念物になっています。本殿の左右には「夕水」・「朝水」という、朝と夕に湧き出たり枯れたりする泉がありました。供物を清めるために使われていましたが、現在は残念ながら枯れてしまいました。

幕末の天才、黒船来航で活躍

四国八十八箇所霊場第76番札所金倉寺に隣り合う新羅神社の境内には、日本を代表する江戸時代後期の儒学者、河田迪斎の顕彰碑があります。

迪斎は、1806（文化3）年、現在の金蔵寺町で生まれました。8歳から儒学を学び、15歳で伊予小松藩の朱子学者である近藤篤山に師事。師は京都への留学をすすめました



迪斎没後50年を機に1910（明治43）年に建てられた顕彰碑

が、両親を相次いで失った迪斎は、家計を支えるために地元にとどまります。やがてその才能が認められ、江戸幕府直轄の昌平坂学問所で学び、1834（天保5）年には著名な儒学者佐藤一斎の養子となり、後に学問所を率いる林家の塾頭となりました。

1853（嘉永6）年、ペリーが浦賀沖に来港すると林家当主の随員として交渉の場に臨み、翻訳や記録を担当。日米和親条約は自ら筆を執って書き上げたといわれています。

1859（安政6）年、病に倒れ帰らぬ人となりました。子の河田然は東京市の助役として活躍し、孫の河田烈は第二次近衛内閣の大蔵大臣を務めたことで知られています。



- 金蔵寺町1165
- JR金蔵寺駅から徒歩約5分

昭和が香る貴重なポスト

善通寺郵便局の駐車場入り口横には、全国に数ある郵便ポストの中でも貴重といわれる「レターポスト」があります。丸ポストは、投函口の下に「POST」と書かれていることが多いですが、このポストは「LETTER」と書かれており、「レターポスト」と呼ばれています。また、ポストの最上部に凸部がありません。さらに、差し入れ口のひさしの中央部に桜の花の模様があります。

この珍しい「レターポスト」は、1948（昭和23）年頃、郵便差出箱1号の企画制定前の試作品として制作されたようです。現役は全国でたった2本でしたが、千葉県白井市の「白井そらぼん博物館」前に1本復活し、全国で3本（千葉県白井市、長野県塩尻市、香川県善通寺市）となりました。

「レターポスト」から大切なレターを出してみませんか。



旅の便りを出してみたくなるレターポスト



- 文京町二丁目（善通寺郵便局東側）
- JR善通寺駅から徒歩約4分
- 駐車場／あり



見上げるほど大きな石塔です。

弘法大師空海の 義犬伝説にちなんだ石塔

四国こどもとおとなの医療センターの駐車場沿いを北に向かい、東側の細い路地を入ると犬塚があります。高さ約2.5mの大きな凝灰角礫岩の石塔（笠塔婆）で、鎌倉時代の作。四方仏に大日如来を表す「バン」という梵字が刻まれています。

この塚には、弘法大師空海の義犬伝説があります。唐に留学していた空海が天竺の国に行った時のこと。天竺の国王は大切にしていた薬草を持ち出されないように、番犬を使っ

て畑を管理していました。他では手に入らない薬草を何とか手に入れたいと考えた空海は、3粒の種を足の股の肉を裂いてその中に隠して持ち帰ろうとしました。ところが1匹の番犬がひどく吠え、問いつめられた空海は盗んでないと言い通し、犬は番人に叩かれて死んでしまいます。かわいそうに思った空海は犬の死骸を持ち帰り、長安で真言の秘法を施して生き返らせます。薬草とともに犬も一緒に帰国し、その後、死んだ犬をまつたという話です。なお、この時持ち帰った薬草の種が小麦の種だったともいわれています。



■仙遊町一丁目
●JR普通寺駅から車で約5分



敷地には仙遊原古墳の石碑が建っています。

弘法大師空海が幼い頃の伝説の地

弘法大師空海が真魚と呼ばれていた幼少の頃、泥土で仏を作り拝んでいると、村吏（村の役人）の案内で勅使（天皇のお使い）が馬に乗ってやってきました。村吏が失礼があつてはと真魚を立ち退かそうとすると、勅使はそれを制して馬から飛び降り真魚に向かって合掌礼拝しましたが、真魚は平然と遊びを続けていました。再び馬に乗った勅使は、「あの子は神童に違いない。天蓋を捧げた四天王に守護されていたよ。だから拝んだのだ。」と言いました。この噂は広まり、人々は神童、貴者などと呼び、幼い空海の英知をたたえたそうです。

境内にある仙遊廟は、旧陸軍第11師団の

練兵場を造る時に移転されましたが、初代師団長の夢枕に空海が立ち、「元のところに帰して欲しい。」と言われたので、現在の場所に再建されたといわれています。現在、寺は建て替えられ、周辺は整備されました。お堂の中には石の稚児大師像と地藏菩薩がまつられ、夜泣きに霊験があるとして、赤ん坊を抱いた参拝客が訪れます。



毎年8月24日は仙遊寺地藏盆がとり行われます。



■仙遊町一丁目
10-1
●JR普通寺駅から
車で約5分

いにしへの歴史に思いを馳せながらロマンの小旅

近世の地蔵講を伝える貴重な地蔵

善通寺詫間線から北へ入り、春日神社の前の道をさらに北に進むと、小さなお堂が見えます。ここに納められているのが阿瀬の地蔵菩薩です。

地蔵は、高さ約2mの檜材の寄木造りで左手に宝珠、右手に錫杖を持ち、両足をそろえて台座に立っています。行基の作と伝えられていますが、鎌倉期以降の作ともいわれ、作者は不明です。

由来については、弘田町の入江氏が阿波の国から招来安置した説と、天霧城主・香川氏の配下である入江一馬氏が天霧山から移したという説の2つがあります。

何度も彩色され、本来の面影が損なわれているのが惜しまれますが、仏像の価値は高く、地蔵と地神（土地の神様）信仰が結合した近世の地蔵講のことをよく伝える貴重なものです。現在は、桜や松に囲まれコンクリートの覆屋に守られています。



しっかりしたつくりの端正な地蔵



■弘田町1465
●市営野球場から徒歩約10分

いにしへの歴史に思いを馳せながらロマンの小旅



遠くからは柏の大樹が目印です。



■中村町1113ほか
●木熊野神社から徒歩約7分

どるいほり
土塁と濠の一部が残る
源氏の城跡

多度津善通寺線沿いにある若宮神社から北に進むと仲村城跡があります。

讃州府志によると、ここは平安後期、源氏に属していた行司貞房の居城でした。鎌倉時代になると、濠を深く、土の堤を高くして二町四方の平域に整備し、この付近の中心的な城となりました。しかし、戦国時代に甲山城が築かれると、廃城となりました。現在でも土塁と濠の一部は残っています。

また城内には、天霧城主香川氏の祖で、後三年の役(1083~1087)年で八幡太郎源義家に従い勇敢に戦って片目を射抜かれたにもかかわらず敵を討ち取り、自ら刺さった矢を引き抜いたという鎌倉権五郎景正をまつ景正神社があります。この神社は眼病を癒す神として霊験があるといわれています。祠の前には、柏の大樹が生い茂っています。

領主の夢枕に立った守護神

弘田川の流れに沿って北へ進むと、高速道路の南側に雲気神社があります。

延喜式内社で讃岐24社に数えられる由緒ある神社で、全讃史には「ほろ祠は昼なお暗く、よく雲気を生じ雨降る、故に雲気の神という」とあります。天正(1573~1592)年間に長宗我部元親の讃岐侵攻による兵火で全焼しましたが、宝暦4(1754)年には丸亀藩主京極高矩が再興し、自筆の額、鳥居、神図を寄進しました。この再興にまつわる次のような伝説があります。

京極高矩が將軍の前で騎射(馬上から弓を射ること)の腕を披露することになりました。心配しつつ眠りについたところ、夢枕に白ヒゲの老人が現れて「明日の騎射は重藤の弓に白羽の矢を用いよ」「わしの言うとおoryれば必ず成功するぞ、わしはお前の領地の守護神・雲気の神じゃ」と言いました。翌日の騎射は大成功し、調べてみると、雲気の古い祠跡が弘田村にあったということです。



田園地帯の中にある神社です。



■弘田町1105

●吉原小学校から徒歩約10分。
高速道路南側の田園地帯。

弘法大師空海が刻んだ
石仏をまつった小さなお堂

国道11号、かつての伊予街道を西に進み、三豊市との境にある鳥坂峠に近づくと、吉原大池の南東側のほとりに七仏薬師があります。

その昔、弘法大師空海がここにお堂を建て、自ら薬師7体の石像を刻んでまつり、五穀豊穡と疫病からの救済を祈りました。医王山七佛寺と呼ばれ、多くの人々が参拝しましたが、中世の戦乱で焼け落ちてしまいました。時を経て承応元(1652)年、吉原大池の工事をしていると土の中から石仏が現れまし

た。工事監督が池の堤にするため砕こうとすると、たちまち気絶して倒れてしまいました。ほどなく息を吹き返しましたが、怖くなって割ることをやめました。するとその夜、夢に僧が現れて石仏のいわれを告げたので、この場所にまつたといわれています。

その後、安永8(1779)年にお堂が建てられ、七仏薬師が再興されました。七仏薬師は、お参りするとも母乳の出がよくなるということで、「乳薬師」とも呼ばれています。目を凝らして暗いお堂の中を見ると、乳房をつけた絵馬がたくさん奉納されています。



門先には西行法師の歌碑があります。



■吉原町2116-1

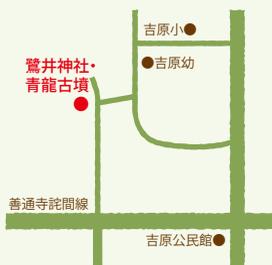
●JR普通寺駅から車で約15分



青龍古墳の一角にある神社



墳丘(左)を囲む広い周庭帯



■ 吉原町1705

● 吉原公民館から徒歩約3分

水に縁のある神社と古墳

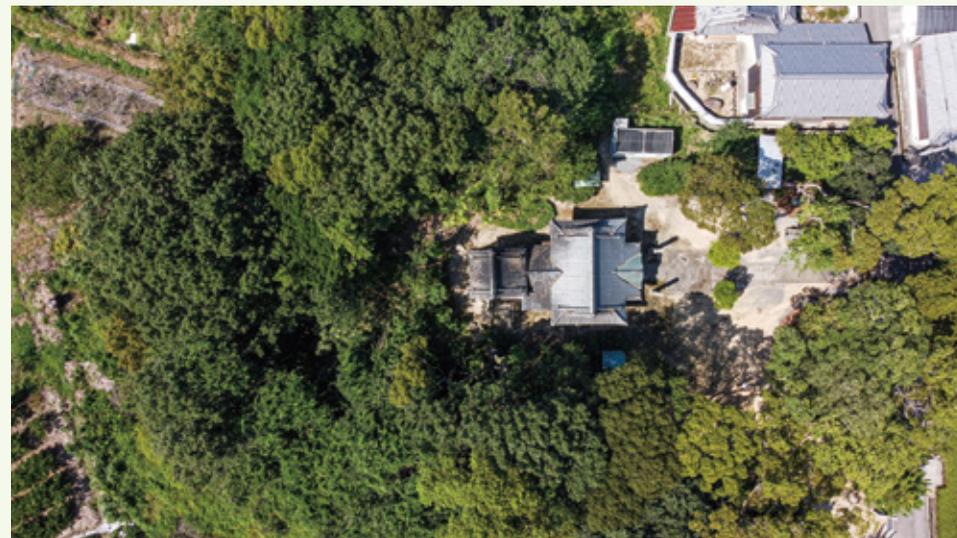
鷺井神社の祭神は少彦名命^{すくなひこなのみこと}、以前は青龍明神と呼ばれていました。また、明治以前は雨乞い祈願に由来する青龍大権現と呼ばれ、弘法大師空海が唐から帰ってきた後に創建し、唐の青竜寺にちなんで名付けた寺であったといわれています。

境内にある青龍古墳は、5世紀後半に築造された2段築成の円墳で、幅の広い周庭帯と呼ばれる平坦地が古墳を取り囲んでいます。これを含めると全長78mで、県内の円墳としては他に見られない大きさになります。また、古墳の外側には中世の戦で掘られた濠跡も

あり、さまざまな時代の痕跡が積み重なって現在の姿になっています。

神社の100mほど東には「鷺の井」と呼ばれる泉跡があります。この泉跡には「あるとき片羽の青鷺がおり、三日三晩羽を休めたところ翼が治り飛び去った。その跡からは清水が湧き出し、神託で眼病に効果があることが告げられ神水として崇められた。鷺が飛び去った後の境内には珍しい「片葉の葦」が自生し始めた。」という古い伝承があります。

周辺では今も「片葉の葦」を見ることができます。



上空から見た鷺井神社・青龍古墳

お遍路さんの無事を見守る
大きな石仏

吉原大池の西の土手を北へ向かうと、上池の堤防の北角に大地蔵があります。高さは3mもある石仏で、連丸型の台座とその下の台石を合わせると全高4.9mあり、台石の上には副仏がまつられています。

この大地蔵は別名「初地菩薩」とも呼ばれますが、初地は菩薩の修行段階である十地の最初の段階を表します。江戸時代の寛政(1789~1801)年間にこの十地になぞらえて仏像を配置する計画があり、初地の石仏として本島の宮本氏と与島の岡崎氏が寄進したものとされています。なお、弥谷寺には十地の最後となる法雲地の名が付く法雲橋があり



ます。

大地蔵の前の道は、弥谷寺と曼荼羅寺をつなぐ遍路道で、西の山中を行く道は、古くからの面影が残されており、「讃岐遍路道(さぬきへんろみち)曼荼羅寺道(まんだらじみち)」として国の史跡に指定されました。大地蔵は今もお通路さんの無事を見守っています。



穏やかで親しみのある表情

銅鐸や銅剣が発見された
弥生時代の遺跡

我拝師山の北麓にある弥生時代の遺跡からは、およそ200mおきに3箇所から計5本の銅剣と流水紋銅鐸が出土しました。いずれも山裾から300歩ほど上がった地点に埋蔵されていました。

銅剣は平行銅剣で、それにはさまれるように眠っていた銅鐸は、高さ29.8cm、重さは1.97kgもあり、縦横無尽に流れる水模様のような流水文様が描かれています。

この流水紋銅鐸が発見されたのは、昭和40(1965)年のことで、その8年後に大阪府茨木市の東奈良遺跡でこの銅鐸のものと特定できる鑄型が発見されました。さらにこの



我拝師山遺跡付近は現在クワイ畑になっています。

鑄型から生まれた兄弟銅鐸といえるものが大阪府豊中市の桜塚から発見されていることも分かりました。

市内では我拝師山遺跡のほかにも、大麻山や陣山、瓦谷などで銅鐸や銅剣が出土しており、銅剣は県内で発見された63本のうち27本が善通寺市内出土で最多を誇ります。陣山出土銅剣は善通寺市立郷土館、我拝師山遺跡や瓦谷出土銅剣は東京国立博物館で保管、展示されています。

数多くの銅剣があり、遠くで作られた銅鐸を所有した当時の人々の営みは一体どのようなものだったのか、想像が膨らみます。





周辺も整備された生誕地の碑



牛穴



きんのう 勤皇運動に命を捧げた 兄弟誕生の地

月照は、文化10(1813)年に吉原村下所に生まれ、10歳で碑殿町にある牛額寺の蔵海に弟子入りし、20歳で京都清水寺成就院の住職となりました。当時財政難だった清水寺を救った後に弟の信海に寺をゆずって、尊王愛国の思想のもと、明治維新の先導者西郷隆盛などと親交を得て奔走しました。しかし、幕府側に追われて九州へ逃げ、隆盛とともに海に身を投げました。隆盛は助かりましたが月照は帰らぬ人となりました。弟の信海も高野山で修業を積み成就院住職となりましたが、月照などとともに活躍したことから幕府にとらえられ、39歳で獄死しました。明治24

「大君の為には何が惜しからむ
薩摩の追門に身は沈むとも」 月照「西の海東の空と変れども
心は同じ君が代の為」 信海

(1891)年、ともに維新の功労者として、月照は正四位、信海は従四位が贈られました。

二人が生まれた現在の吉原町には生誕地の石碑があり、平成26(2014)年に県道拡張工事のために移築され、現在は修業をした牛額寺の方を向いて建っています。

牛額寺はもともと山手にあり、その場所には薬師堂が残されています。ここには、霊牛が出入りしたという伝説の牛穴があり、隣の広場には、月照と信海の像が建てられています。もとは銅像でしたが、第2次世界大戦の際に供出したため台座だけになり、昭和53(1978)年に速水史朗氏作の石像に生まれ変わりました。また像の近くには東郷平八郎が月照・信海の功績を称えた石碑も残っています。



普通寺市、多度津町、三豊市にまたがる天霧山



●JR普通寺駅から牛額寺まで車で約15分。

あまぎり
尼斬り伝説の天霧城があった山

市の西北に位置する天霧山は標高381m。普通寺市、多度津町、三豊市にまたがる伝説の山です。奇岩が多く、断崖絶壁に囲まれた険しい地形を生かして築造されたのが天霧城です。南北朝から戦国時代にかけてつくられました。

天霧城主の香川氏は、貞治元(1362)年の白峯合戦で南朝方の細川清氏を打ち取って勢力を伸ばしました。三野・多度・豊田の3郡を領地とし、平時の居館を多度津本台山に構え、戦さのために天霧城を築きました。その後、細川氏の守護代として讃岐13郡のうち6郡を治めましたが、天正7(1579)年に土

佐の長宗我部元親に降伏し配下となります。さらに天正13(1585)年の豊臣秀吉の四国征伐で敗退し、220年あまり住んだ城を捨てます。

一説には香川氏は長宗我部氏との戦いで、天霧城に立てこもりましたが、城を囲んで水がなくなるのを待った長宗我部軍に水があるように見せかけるため白米を流しました。最初は敵の目をごまかせましたが、通りかかった尼が「あれは水ではなく白米だ」と告げたため、たちまち攻め込まれて落城しました。尼は香川軍の落武者に斬り殺され、そのため「尼斬城」ともいわれたという伝説が語り継がれています。

天霧山の登山コース



天霧城跡へは①普通寺市側からの登山道と②三豊市の弥谷寺からの登山道がある。いずれのコースも登山口から約1時間30分。
①牛額寺から高速道路手前の側道に出て西に進み、小高いみかん畑まで行くと天霧城跡の案内板がある。ここから舗装道路に沿って山に登って行くと、道の右側に案内標柱がある。この先は上の地図を参考。
②弥谷寺からは境内の護摩堂前の表示に従って旧四国遍路道を東に進むと天霧城跡に出る。

讃岐平野を望む緑豊かな里山

五岳山は弘法大師空海御生誕所である四国八十八箇所霊場第75番札所善通寺の西側に連なる香色山・筆ノ山・我拝師山・中山・火上山の五山のことで、屏風のように連なる美しいさまから「五岳山屏風ヶ浦」とも呼ばれています。

幼少期の空海を育んだ地であることから、古くより厚い信仰を集めています。





アカマツに覆われた小さな山です。

市街地に一番近い善通寺の裏山

香色山は総本山善通寺の裏にあるお椀をふせたような山です。標高153.2m。頂上には「佐伯直遠祖坐神」と刻んだ石廟があり、傍らに京極家の寄進である不動明王と愛染明王の石像が並んでいます。石像の背面には、江戸時代にこの場所で経塚が発見された際の記録が克明に記されています。また、物事に動じない心を授け、無病息災、滅罪の功德があるという「阿闍如来」の石仏が見守っています。弥生時代の石棺墓群とともに、複数の経塚が確認されています。特に1号経塚は

平安時代後期のもので、全国で唯一の上下2段構造(2世代用)であることが判明し、県の史跡に指定されました。

山頂からの眺めはすばらしく、展望所からは善通寺市街や丸亀平野、瀬戸内海の島々まで見渡すことができます。



頂上遺跡(1号経塚と石棺墓が保存整備されています。)

誰でも挑戦できる四国巡礼のミ二版

総本山善通寺の駐車場前の五智院を出発点として、四国八十八箇所霊場をなぞるミ二遍路です。天正14(1586)年、九州の島津氏と豊臣秀吉の命を受けた四国勢が豊後戸次川で戦い、仙石秀久の無謀な戦略により大勢が犠牲となりました。それから二百余年を経た江戸時代の寛政10(1798)年に、「戸次川の戦い」の犠牲者を悼む意味もあり、一寺一仏の石像が香色山の山裾に完成したといわれています。

ミ二遍路は、第1番札所(五智院)のお堂で釈迦如来を拝んだ後、山裾の石仏をたどりながら進みます。54番と67番の前に休憩スポットがあり、79番の前から大師お杖の水の闍伽井へと降りていく道もあります。

現在も、多くの人が1周約1,600mの山道を歩いて日々の体力づくりに励んでおり、五智院の前には3,000日以上歩いた方々の名札が掛けられています。1番から88番までの石仏を拝みながら自分のペースで巡ってみてください。



石仏を拝んで88ヶ所を巡ります。



- 善通寺町1050-1
- JR善通寺駅から徒歩約20分。
総本山善通寺駐車場の前、五智院北側に登山口がある。
登山口から山頂まで徒歩約20分。
五智院から周回するコースあり。

さまざまな説の名前を持つ山

筆ノ山は標高296m、山頂が細くとがっていて、遠くから眺めると筆の穂先に似ているところから名づけられました。また、筆草が生えていたという説もありますが、筆草は未だ確認されていません。五岳山の名前は、それぞれ仏教上の意味合いが込められており、弘法大師空海が書道に優れ三筆のひとりといわれたことに深く関係しているとも考えられています。

徳川末期に丸亀藩の砲術隊が筆ノ山のふもとを標的にして実弾射撃の訓練をしたことから、「どんどやま」とも呼ばれていました。



山頂が細くとがっているのが特徴です。



●香色山の西側。
筆ノ山平谷登山口から山頂まで徒歩約30分。

また、太平洋戦争中は敵を見張る監視哨^{かんししょう}が造られていました。現在の山頂には財宝を生み出し幸福を授けるとい^{ほうしゅうによらい}う「宝生如来」の石仏がまつられています。

東の麓には寺院跡があり、五輪塔と古瓦が発掘され、古くからの仏教遺跡だといわれています。また、筆ノ山の麓には、力持ちの牛飼いがいました。通行人を待ち受けては相撲を取ったり、俵を担いだり、人を抱いて弘田川を渡るほどの怪力の持ち主でした。この男は^{いつくしませきえもん}厳島関右衛門という江戸でも有名な力士になり、その墓が筆ノ山の麓にあります。



五岳山最高峰の我拝師山

五岳の最高峰は弘法大師空海最初の修行の地

五岳山の最高峰で標高481m。古くは^{わしのやま}倭斯濃山と呼ばれていました。花こう岩の上に凝灰角礫岩を挟んで讃岐岩質安山岩^{ぎょうかいかくれきがん}がある、香川県でよく見られる孤立丘（ビュート）です。讃岐岩質安山岩^{こうがんそう}の硬岩層300~400mにかけて険しい崖を形成し、特に南側の崖は^{しゃしんがだけ}捨身ヶ嶽と呼ばれ、幼い日の弘法大師空海が修行をした地として知られています。

伝説によれば、^{まお}真魚と呼ばれていた7歳の空海は、我拝師山に登り「私は将来仏門に入



●筆ノ山の西側。
出釋迦寺から山頂まで徒歩約60分。

り、仏の教えを広めて多くの人を救いたい。私の願いが叶うなら釈迦如来よ、姿を現したまえ。もし叶わぬのなら一命を捨ててこの身を諸仏に捧げる。」と、断崖絶壁から身を投じました。すると、釈迦如来と天女が舞い降り抱きとめたと伝わります。この時、空海がお釈迦様を拜んだことから、我拝師山と呼ばれるようになりました。

この山の麓には^{しゅつしゃかじ}出釋迦寺があり、山頂近くに奥の院^{せんじょう}禅定があります。山頂には、宇宙の真理を表し諸願成就の^{だいにてんによらい}「大日如来」がまつられています。

がはいしさん
我拝師山と火上山に挟まれた
まんなかの山

標高438mの中山は、我拝師山と火上山の間にあります。我拝師山と同じく、花こう岩の上に凝灰角礫岩を挟んで讃岐岩質安山岩のつた孤立丘です。

山の名は「多度郡屏風浦善通寺之記」によれば、「五岳とは、香色山・筆ノ山・我拝師山・中山・火上山是也…中山とは、字のことし」とあり、我拝師山と火上山の中央に位置することからついたようです。東は丸亀平野、西は三豊平野を望み、はるか昔、のろしを上げた跡も残っています。山頂では、現世安堵の御利益があり極楽浄土に導くという「阿弥陀如来」の石仏がまつられています。

みかん畑になっている北麓の丘陵は水茎の岡と呼ばれ、そこには西行庵があります。



左から火上山、中山、我拝師山



- 我拝師山の西側。
出釋迦寺から山頂まで徒歩約60分。

古墳や山岳寺院の跡が残る
「のろし」の山

標高408.9mの火上山は、善通寺市と三豊市に接する位置にあり、すぐ北に鳥坂峠、その北に弥谷山と天霧山が続いています。昔から軍事上の重要な位置にあり、ここにのろし合を置いたことから、この名前がついたともいわれています。

北側のゆるい丘、スズメ池の東にある農道を上がった中山と火上山の間の窪地には大窪寺の跡があります。平安時代、仏教が盛んなころに建てられた立派な山岳寺院であったようです。この窪地の北の端には、大窪塚古墳と呼ばれる前方後円墳があります。瀬戸内海沿岸部の積石塚のなかで最も西に位置していて、大きな竪穴式石室も残されています。山頂には物事を成就させるための知恵を授けてくれる「不空成就如来」の石仏がまつられています。



- 中山の西側。
火上山登山口(西碑殿口)から山頂まで徒歩約50分。

大池から瀬戸内海へ
豊かな農耕文化を育んだ川

弘田川の水源は大麻山と我拝師山に挟まれた有岡地区の大池で、総本山善通寺や甲山寺の傍らを流れて瀬戸内海に注いでいます。

川の名は、我拝師山の北方の地「弘田」に由来し、昔この地が広田神社の神戸かんべ（神社に所属してその経済を支えた民）であったことにちなんでいます。川は、平安時代の弘田郷があったあたりを流れていますが、その流域には弥生時代の遺跡が多いことから、この川

の恵みによって古くから農耕が行われていたことがわかります。

弘田川と金倉川に挟まれた中村町の永井遺跡からは、古代河川が発掘され縄文時代後期につくられた木杭の列が発見されました。自然木を50cmほど切ったもので、先端をとがらせ表面は腐食を防ぐため黒く焼いていることから、縄文当時にはすでに自然の河川などを生活に利用していたことがうかがえます。



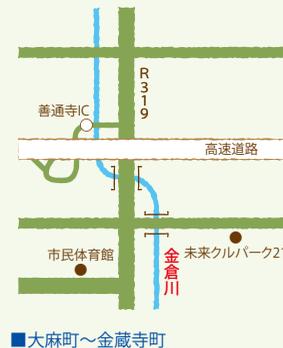
弘田川の周辺では今も農業が盛んに行われています。



■大池～善通寺町～弘田町



金倉川は江戸時代「榊梨川」と呼ばれていました。



■大麻町～金蔵寺町

満濃池から瀬戸内海へ
何度も川筋を変えた川

金倉川は長さ20.5km、流域面積60.2km²。水源は弘法大師空海が修築した満濃池で、まんのう町から琴平町、善通寺市と流れ、丸亀市西部で瀬戸内海へと注いでいます。

専門家の調査によると、川の流れと地表の傾斜分布が一致していないので、もともとの流れとは違って現在の川筋があるとも推察され、満濃池の灌漑用水として人工的につくられたという説もあるほどです。

善通寺市では市街を流れる中谷川をはじめ、金倉川の水が流れる川や水路が張り巡ら

されています。これらの水のネットワークは、水を確保するためだけではなく、水を分散させることで水害を防ぐ役目も果たしています。

町と駅の名は「金蔵寺」、寺は「金倉寺」と書いて「こんぞうじ」、川は「金倉川」と呼びます。承平年間につくられた「和名抄」には「那珂郡金倉郷」の名前が残されています。周辺一帯は川の水を利用して米づくりが盛んで、川の氾濫から貯蔵した米を守るために高床式の倉があったと伝わります。それが金倉の由来です。また、金倉寺には、弥生時代の銅鐸に描かれた高床式の倉庫とそっくりの鐘楼が建てられています。

オニバスが繁殖する池

JR金蔵寺駅の南西に位置する稲木町の前池にはオニバスが繁殖しています。一時は生息が危ぶまれたオニバスですが、今はため池の水質改善が進み、各地で徐々にその姿が戻りつつあるようです。それでも毎年、生育する前池は貴重で、「オニバスの咲く池」として「四国のみずべ八十八カ所」にも選ばれました。

オニバスはスイレン科の浮葉植物で、体表に鋭いトゲを持つことからこの名前がついています。夏に美しい青紫の鶏頭状の花を咲かせ、種子は土の中で数十年間にわたって休



8月中旬から9月中旬にきれいな花が咲きます。

眠状態に保つことが知られており、絶滅したと思っていても、環境が整うと発芽することがあります。種子は食用にもされ、滋養、強壮、鎮痛薬としても効果があります。貴重なオニバスは平成16(2004)年、市指定文化財(天然記念物)になりました。また、平成17(2005)年に説明記念銘板が池の堤に設置されました。環境省から絶滅危惧二類に指定されたオニバスは、現在も稲木町前池オニバス保存会の人々によって守られています。

また、中谷川が流れ込む瓢箪池にもオニバスが生育しています。



- 稲木町
- JR金蔵寺駅から徒歩約5分
- 駐車場/周辺に臨時駐車場あり



造形的な幹が印象的なカイツカイブキ

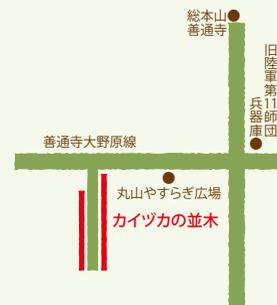
炎のようなカイツカイブキの並木道

丸山やすらぎ広場を西に進んだ先にはカイツカイブキの並木道があります。

カイツカイブキは、土質を選ばず乾燥地に強い上に樹齢が長く、四季を通じて生命力にあふれた緑の色を見せてくれます。洋風建築に似合うので旧陸軍第11師団司令部の前にも植えられています。一説では、乃木将軍が日露戦争の203高地の戦いに勝利したお祝いに市民から贈られたものが204本のカイツカイブキであったといわれています。

ゴッホの糸杉の絵を思い出すほど、天に

向かって思い思いにのびていくカイツカイブキの木々。その幹は不思議にねじれて造形的で、冬でも濃い緑の梢が炎のように立ち上がっています。



- 普通寺町
- JR普通寺駅から車で約7分

熊野権現にゆかりのある神社

木熊野と名づけられた神社は市内にいくつもありますが、すべてここ中村町の木熊野神社からの分霊といわれています。ここは、中村町の産土神で、十二社権現または榎の宮と呼ばれていました。木熊野は紀伊熊野の意味で、もともとは熊野権現であったのを、明治の神仏分離令によって木熊野と改称、登録されました。

境内には珍しいナギの群落があります。ナギは、熊野地方で神木とされる木で、祭神にゆかりの深い紀州（和歌山県）から移植されました。マキ科の常緑高木であるナギは、20mくらいまでのび、葉には光沢があります。



算額。難しい数字の方程式をカラフルな絵で表し、漢文で説明したもの。江戸時代後期に奉納。

古くから悪魔を払い災難をのがれることができ、さらには病気の治癒にも霊験があると信じられてきました。

この神社に伝えられる珍しい神事は県の無形民俗文化財に指定されています。また、拝殿に奉納されている算額は現代数学でも通用する方程式が書かれているもので、市の有形文化財に指定されています。



- 中村町137-1
- JR善通寺駅から車で約10分。
多度津善通寺線沿いにある若宮神社の西側。



青々としたナギに囲まれた木熊野神社

木熊野神社の特殊神事（県の無形民俗文化財）

木熊野神社の秋祭りでは、昔ながらのしきたりにのっとった珍しい神事が行われています。祭の7日前の「シオカワ神事」は、頭屋の家に神主が来て御幣を切り、餅をつき、甘酒を神社まで持っていきます。神社では社前の湧き水に神主や頭屋の主人などが素裸で入り身を清め、祭具を洗います。祭りの前日には、頭屋の家に御神屋を設け神社からの神輿を迎えます。神輿は祭り当日に頭屋を出てお旅所に向かいます。

ご神体は、オンユルワと呼ばれる小桶の中に入れた玄米で、お旅所で神主の手によって神輿の中に納められます。ここで献饌の儀や獅子舞の奉納があり、やがて神輿は本社まで戻り神事が終わります。

玄米をご神体にするなど、この祭りは農耕儀礼のひとつだったと考えられます。伝承会により、古いしきたりが守り続けられ、これらの神事は県の無形民俗文化財に指定されました。

豊かな自然と四方の眺めを 思う存分楽しめる山

大麻山は善通寺市の南部から高瀬町の北東部に位置し、標高は616.3m。琴平町の琴平山へと続きます。

山の名は、周辺が古代に麻の大生産地であったことに由来し名付けられました。独立峰では香川県下一の高さを誇り、頂上付近にはテレビ局の中継塔などが建てられています。全域が瀬戸内海国立公園の一部に指定され、国蝶のオオムラサキが生息し、国の天然記念物の指定を受けた地域もあり、すばらしい眺めと豊かな自然を楽しめます。また、山裾一带に古墳が点在し、土器や銅剣、銅鐸、飾玉、経筒などが数多く出土しました。山中には、青龍権現をまつる龍王社や幅20m、高さ15mの屏風岩が切り立つ葵の瀧があります。

自然と史跡に恵まれた大麻山には、約13kmのチェリーラインと、約8kmのグリーンラインのハイキングコースがあります。コースから眺める善通寺市街、讃岐平野と瀬戸内海、そして四国の山並みに三豊平野、燧灘^{ひうちなだ}を望む眺望はまさに絶景です。

4月下旬から5月上旬にかけて、山頂には1kmに渡り約800本のボタンザクラが咲き誇ります。



象頭山へと続くどっしりとした大麻山



ボタンザクラが美しく咲き誇る春の大麻山



●JR善通寺駅から山頂まで車で約30分。
登山口から山頂まで徒歩約3時間。



鎮守の森に囲まれた吉田八幡神社

空海の母が祈願した神社と 殿様の病気を治した神社

上吉田町の満賀池の北の道を入れていくと吉田八幡神社があります。この神社は創建当時、良田郷と記される一帯の氏神様で、その後、上吉田、下吉田、稲木の三つの村の産土神となりました。境内には古墳があり、その上に神社の本殿が建っています。奈良時代から存在した由緒のある神社と考えられ、弘法大師空海の母・玉寄御前がここに祈願して、無事に空海を生んだと伝えられています。

毎年秋の大祭では、鎮守の森に囲まれた境内に四つの獅子組がそろい、華やかな獅子舞を披露します。

吉田八幡神社のすぐ北にある石神神社は、慶長（1596～1615）年間に志々島からご神体の石が下吉田村の下処にやってきたと伝わっています。その後、この場所に移ってきたのは宝暦11（1761）年で、寛政9（1797）年頃に整備が終わりました。

殿様の病気平癒がかなったお礼に丸亀京極家の源高中公から寛政9（1797）年と文化7



石神神社

（1810）年に絵馬が2額奉納されました。また京極家臣団23名による手洗石が残されています。

終戦後は御神楽の前後に青年団が芝居を上演し、浪曲大会があり、露店が20～30もならび、店先の灯りが印象的でした。当時は石神名物の桃が飛ぶように売っていました。

かつては旧金毘羅街道沿いに鳥居がありましたが、現在は境内に移されています。柱には郡家村・大麻村・中村等広域の各村の庄屋様の名前などがあり、地元のみならず広く信仰を集めた石神神社です。



- 下吉田町字本村東320
- 東部小学校から徒歩7分

70 おおいゅう かみゆう しもゆう 大井湧 (上湧・下湧)

豊かな自然、緑がいつぱいの山道を散策

多度津の人々にも 感謝されてきた湧き水

石神神社の北に、満賀の上湧・下湧と呼ばれる「大井湧」があります。この湧き水は多度津にも配水され、人々に大切にされてきました。

江戸時代の末期には多度津の田は満濃池の水ではなく、この湧き水でうるおすようになり、再び満濃池の配水を受けるようになったのは昭和35年になってからでした。石神神社の境内には、大井湧でうるおった多度津の五つの地区が感謝を込めて立てた石柱が残されています。



魚が泳いでいるきれいな湧き水です。

ここは、多度郡の金毘羅街道の近くで、元禄時代からは善通寺より金倉寺こんぞうじに続く遍路道沿いでもあります。旅の人やお遍路さんは、この水で大いに喉をうるおしたのです。

現在も湧き出る水は大切に管理されています。また、秋祭り際には身を清める水として使われるなど、地元の人々に愛され続けます。



- 下吉田町
- 吉田八幡神社から徒歩約2分

71 ながいのしみず 永井清水

人々の生活を支え続けてきた 豊かな出水

JR金倉寺駅から西へ進むと、道の右側に永井清水があります。住宅街の一角に石垣で整えられた堀があり、北に向かって流れています。この出水は百数十坪あるといわれ、下流一帯の多くの田に水を送っています。近くには稲木北遺跡があり、古代の郡庁を思わせる大規模な建物跡なども見つかりました。

江戸時代は、丸亀京極藩の藩主が休憩するために永榎亭えいしかていと名づけられた「お茶屋」と呼ばれる休憩所があり、ところてんの名所であったともいわれています。



今でも生活用水の一部として使われています。

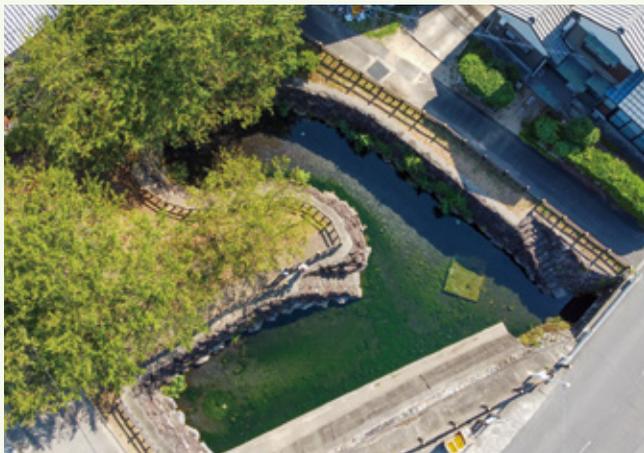
文化から天保にかけては丸亀城下に新たな湊みなとが整えられたことで、土佐の藩主も丸亀から参勤交代の船を出すようになりました。そこで、伊予街道を東進し鳥坂峠を越えた大名行列は永井清水に立ち寄り、藩主山内公は永榎亭で一休みし、藩士の人たちは周辺に4ヶ所ある湧き水で体を癒やしたといわれています。

榎の大木があったことから「えのきの出水」、「ゆきの出水」とも呼ばれ、多くの人々に親しまれてきました。



- 下吉田町
- JR金蔵寺駅から徒歩約10分

豊かな自然、緑がいつぱいの山道を散策



上空から見た二頭出水



■生野町
●JR善通寺駅から徒歩約5分

まちを流れる 疎水の源泉は水の公園

JR善通寺駅の南東には、満水面積800㎡、貯水量1600㎡の二頭出水があります。

元禄6（1693）年の寺社帳に記載があり、江戸時代は生野村にあったにもかかわらず取水の権利がなく、上吉田村や下吉田村、稲木村に取水権があったそうです。また善通寺の大池が干上がった時に限り、寺領の田畑にも取水が許されていました。しかし、干ばつの際にはいずれも水が貴重となるので、水争いが度々あったといわれています。

現在の二頭出水は色とりどりの鯉が泳ぎ、ほとりは休憩所のある小公園になっていて、石段で水辺に下りられます。

上野時生著の「善通寺の原風景」によれば「湧水は線路の下をくぐって市内に流れ込み、満濃疎水と合流して網の目のように民家の間を流れている。気をつけてみると美しい疎水の町並みが、そここで情緒のある風景をつくり出している」とあるように、疎水は善通寺市の風景に欠かせないものとなっています。



歴史のある湧き水

鎌倉時代の絵図にも描かれた湧き水

生野町にある「壺岐の湧」は、総本山善通寺所蔵の国指定重要文化財「善通寺ぜんつうじがらんならびじりょうえす 伽藍并寺領絵図」に描かれています。この絵図は徳治2（1307）年、鎌倉時代に善通寺領新田開発のために描かれたもので、周辺の田畑を潤すだけでなく善通寺領の大切な水源であったことがわかります。

「壺岐の湧」は、農業用水の水源としての役割以外にも干ばつ時の貴重な水源となったり、非常時には防火用水になるなど大切な役割を担ってきました。

平成14（2002）年度に親水施設として整備され、今も変わらず地域の人々に大切に守られ、親しまれています。



■生野町
●JR善通寺駅から徒歩約15分



周囲は1周1.3kmの散歩道になっています。

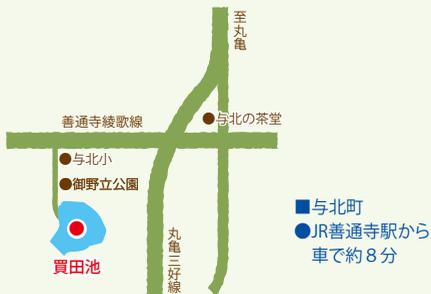
周りの田を買い取り造った池

瀬戸内式気候の香川県は晴れの日が多く、昔から干ばつ、水不足に悩まされてきました。日照り続きの夏にはさまざまな苦労を重ね、水をめぐる争いもたびたび起こりました。そのため、昔から大小いくつものため池が造られてきました。

慶長17(1612)年に付近の田を買い取って池を造り、「買田池」と名づけられました。当初は規模が小さく、しばしば水不足に苦しんでいました。しかし、元禄13(1700)年に大庄屋の高畑権兵衛が、土器川から掛け井手を造って水を引き、池の増築工事に成功し、水

不足が解消されました。

こうした功績をたたえ、明治26(1893)年に御野立公園に、昭和54(1979)年には池の堤に記念碑が建立されました。また、高畑権兵衛の墓は持宝院にあり、毎年8月には権兵衛祭が行われます。



堤からは色々な景色が望めます。

丸亀平野最古のため池

王墓山古墳から西へ少し歩くと大池があります。西には我拝師山、東には飯野山(讃岐富士)が見え、遠くには瀬戸大橋も望めます。

ここは有岡大池と呼ばれ、鎌倉末期の徳治2(1307)年に作成された「善通寺伽藍ならびにじりょうえず ぜんつうじがらん 并寺領絵図(一円保差図)」にこの池と思われるため池が描かれています。築造の時期を考えると、丸亀平野の中でも最古の部類に入るため池です。ため池台帳によると、堤高

11.9m、堤長460m、貯水量25万 m^3 、満水面積9.8ha、弘田川を通じて善通寺市、多度津町を潤しています。





上空から見た地蔵池



- 生野町
- JR善通寺駅から車で約8分



池の改修時に取り出して保存されたすっぽんユル

江戸時代の街道は
心地よい散歩コースに

南部小学校の南にある地蔵池は、天保（1830～1843）年間に編集された「西讃府志」に「生野村と大麻村にまたがっており、周囲は八町で^{かんがい}灌漑田は二十三町五反である」と記されています。堤防の南東端には池の名前の由来になったと推測される2体の地蔵があります。1つは右足を左足の膝に乗せ、左足をたれた珍しい姿です。「寛政十年」と「文化八年」と記されているので、1798年と1811年に建立されたことがわかります。当時、この池

の土手は多度津とこんぴらさんを結ぶ金毘羅参詣道（多度津道）で、道標や灯笼などが今も多く残されています。四国巡礼や金毘羅参りが盛んになった江戸時代後期は大変にぎわい、明治時代以降は人力車や荷車も多くなったことから堤防が傷みました。そこで灌漑用水の不足を補う意味でも堤防のかさ上げが行われたといわれています。

大眉山や我拝師山が見える美しい池で、現在は地蔵池公園として整備されました。

池の周囲は地元の方々によって手入れされており、花壇には季節の花が咲いています。



池を周遊できる散歩コース

郷土の自然を描いた 漆芸作品を常設展示

市役所に隣接して善通寺市美術館（大西忠夫記念館）があります。

大西忠夫氏は、大正7（1918）年に善通寺市で生まれ、筆岡小学校卒業後、香川県立工芸学校に進み、芸術院会員の堆朱楊成先生に師事した漆芸作家です。色漆を塗り重ねた素材のみ等で彫りだす「彫漆」の技法を用い、絵画のような作品を発表しました。日展特選を皮切りに内閣総理大臣賞、文部大臣賞、勲四等瑞宝章など数々の賞を受賞し、平成11（1999）年には善通寺市名誉市民に選ばれています。

美術館では、大西氏の作品を常設展示するほか、年に1度「大西忠夫特別展」を開催して



里（飾壺）1994年。大西忠夫作。

います。また、さまざまな芸術家や市民グループが展示や発表を行っており、芸術にふれる場として親しまれています。



- 文京町二丁目1-3
- JR善通寺駅から徒歩約3分
- 開館時間 / 10:00～18:00
- 休館日 / 月曜・祝日・年末年始
 (12月29日～1月3日)
- 入館料 / 無料
- 駐車場 / 市役所の駐車場利用可
- 問い合わせ / ☎ 0877-62-4924



気軽に立ち寄れる現代的な建物



玉藻秀麗（四曲一双屏風）1990年。大西忠夫作。

ぜんつうじしみんたいいくかん 善通寺市民体育館・ ぜんつうじしみん 善通寺市民プール

充実した施設、善通寺市は面白い。学べる。嬉しい。



多くの人に利用される施設です。



- 金蔵寺町398-6
- JR善通寺駅から車で約6分
- 【市民体育館】
- 開館時間／9:00～21:30
- 休館日／年末年始(12月28日～1月4日)
- 問い合わせ／☎ 0877-62-7400
- 【市民プール】
- 営業期間／7月上旬～8月下旬(年によって変動あり)
- 営業時間／10:00～20:00
- 問い合わせ／☎ 0877-63-3555

歓声のあがる 市民の健康スポット

国道319号線と善通寺大野原線の交差点の北西に善通寺市民体育館と善通寺市民プールがあります。

市民体育館には、バレーボール、バドミントン、バスケットボール、テニス、卓球ができるメインアリーナとサブアリーナがあります。また、エアロバイクやランニングマシンなどをそろえたトレーニングルームもあります。スポーツを通じた体づくりに加え、展示会や催物も開かれるなど、子どもから大人まで気軽に利用できる施設です。

市民プールには、大人気の高さ約18mのスパイラルウォータースライダーをはじめ、人工的に波を発生させる造波プールや全長約120mの流水プール、クジラ型の噴水がある幼児用プールなどがあり、色々な世代の方が楽しめるレジャープールとなっています。市内はもとより市外からも多くの人が訪れます。

充実した施設、善通寺市は面白い。学べる。嬉しい。



子どもに人気のあるウォータースライダー

昭和天皇がお立ちになった
景色のよい公園

与北小学校の南、鉢伏山北東の高台にあるのが、御野立公園です。

ここは大正11(1922)年、丸亀平野で行われた陸軍特別大演習の時、当時皇太子であった昭和天皇が統括監督した場所で、昭和天皇が詠まれた「あかつきにこまをとどめて見渡せば讃岐の富士に雲ぞかかれる」の歌碑が立っています。公園には桜の木が植えられていて春には花見の名所となります。眺めもよく、形よくそびえる飯野山(讃岐富士)を中心に、丸亀平野から瀬戸大橋まで見渡すことができます。



正面に見えるのが飯野山です。

南の石段を下りれば買田池、公園の西から続く遊歩道を下りれば鉢伏山浄華院正覚寺へと続きます。この境内には、首が真一文字に切れている身代わり地蔵があります。この地蔵は、買田池水路の阿弥陀又という分岐点に埋まっていたが、「ここから出してほしい」と村人の夢に出てきて掘りだされたもので、弘法大師空海の作と伝えられています。首が切れているのは親孝行な娘の身代わりになったからといわれ、それ以来身代わり地蔵と呼ばれてきました。



- 与北町1322-1ほか
- JR普通寺駅から車で約8分

女性からの信仰が厚い七仏薬師

赤門七仏薬師は、総本山善通寺創建1200年を機に、吉原町の七仏薬師より勧請され、2006年に建立されました。

この七仏薬師は石造で、左手に薬壺を持ち右手を施無畏印とするお姿で、台座の部分に分身の六尊が浮き彫りされています。薬師如来は、現世におけるすべての病苦をのぞくとされ、特に七仏薬師は安産の功德を得るとされています。また、お参りすると乳の出がよくなるといわれていることから、女性からの信



お参りすると乳の出がよくなるといわれています。

仰が厚く安産や子宝祈願の人々が後を絶ちません。参拝者は道を挟んで向かい側にある赤門いっぶく亭で「おっぱい絵馬」を求め、願い事を書いて奉納しています。

毎月8日には御法楽が行われ、午前中の9時から11時過ぎまで、赤門七仏薬師がある赤門筋で「八日市」が開催されています。季節に合わせあめ湯やかき氷などのお接待があるほか、赤門いっぶく亭では産直野菜などを販売しています。



- 善通寺町六丁目(赤門筋)
- 総本山善通寺金堂から徒歩約2分



懐かしい香りが漂う観光交流センター



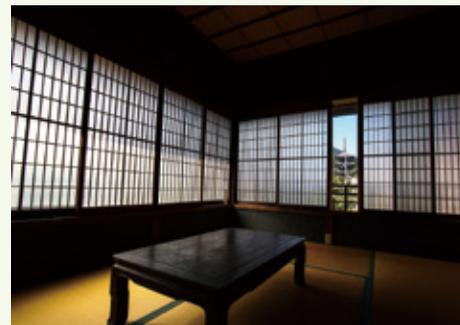
- 善通寺町二丁目8-23
- 総本山善通寺金堂から徒歩約5分
- 開館時間／9:00～19:00
- 休館日／火曜(祝日の場合は翌平日)・年末年始(12月29日～1月3日)
- 入館料／無料(貸館は有料)
- 駐車場／あり
- 問い合わせ／☎ 0877-64-1250

気軽に立ち寄れる 善通寺市の観光拠点

善通寺市観光交流センターは、市民や観光客の交流を目的に平成23(2011)年に整備されました。建物は、昭和初期に建てられた善通寺市指定文化財である料亭「旧すし傳店舗」を保存利活用したもので、懐かしい香りが漂っています。各室の床や欄間、縁側各所の手すりなどは意匠が凝らされ、2階の「四季の間」からは総本山善通寺の五重塔を間近に望むことができます。

観光案内所として観光情報を提供しているほか、大広間や和室を貸し出し、各種イベントの会場にもなります。

また、建物の一画には、気軽に立ち寄れる「供待の湯」(足湯)があります。この足湯の



2階「四季の間」から五重塔を望む



「供待」と呼ばれる空間

ある場所は、料亭に来た客の供人(従者)のための控え場所兼休憩場所、で、「供待」と呼ばれる空間です。

市民から観光客まで誰でも気軽に立ち寄れる善通寺市の観光拠点です。



無料の足湯「供待の湯」で癒される



陽当たりのよい開放的な空間

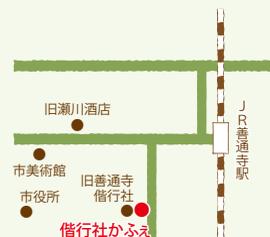
重要文化財を眺めながら ランチやお茶を

国の重要文化財である「旧善通寺偕行社」に隣接して「偕行社かふえ」があります。レトロでモダンな洋風建築でガラス張りのカフェです。芝生広場と明治浪漫あふれる偕行社の建物を眺めながら、ゆったりとした時間が流れます。開放的な窓ガラスには緑が広がり、春には桜の花を眺めることができます。モーニ

ングやランチのセットメニューもあり、スイーツや善通寺陸軍バーガーが人気です。

結婚式場としても人気で、四季折々に美しい表情を見せる庭園では、オープンエアセレモニーやフラワーシャワーなどが行われています。

偕行社を眺めながらゆったりとした時間を過ごすことで、善通寺市の歴史や風情を感じることのできるカフェです。



- 文京町二丁目1-1
- JR善通寺駅から徒歩約3分
- 営業時間/8:30~17:00
- 定休日/水曜(祝日は営業)・年末年始(12月29日~1月3日)
- 問い合わせ/☎ 0877-62-4906



おしゃれな外観が目を引きまます。



屋上庭園からの景色。五重塔や五岳山が望めます。

気軽に立ち寄れる集いの場所

JR普通寺駅から西に向かって5分ほど歩くとおしゃべり広場が見えてきます。

中に入るとキウイフルーツの木が出迎えてくれ、屋上庭園に行くと四季折々の草花を觀賞することができます、また普通寺市の街並みを眺めることもできます。

おしゃべり広場では市の特産品である「讃岐もち麦ダイシモチ」やその関連商品のほか、キウイフルーツをはじめとした県産フルーツや地元で採れた野菜などを販売しています。また、市民の交流の場と観光案内所を兼

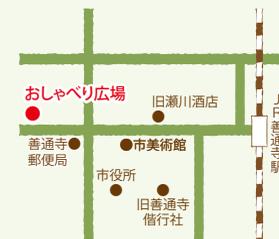
ねており、観光パンフレットなどを取り揃えているほか、レンタサイクルも1日200円から利用することができます。レトロな街並みをくまなく散策したい方に是非おすすめです。



売場の様子



マルシェには多くの人が集まります。



- 上吉田町二丁目1-9
- JR普通寺駅から徒歩約5分
- 営業時間 / 9:00~17:00
- 定休日 / 火曜日・年末年始
(12月30日~1月3日)
- 問い合わせ / ☎ 0877-64-0012

五岳の麓で季節の草花を楽しむ

瀬戸内海を望む我拝師山北麓の緩やかな丘陵地に「花のまちづくり」の拠点施設として平成22(2010)年に開園しました。開園以来幅広い年齢層の方に支持され、今では年間10万人ほどが来園する人気のスポットです。

広大な園内はウェルカムガーデンにはじまり、石積花壇の花咲き棚田、子どもたちに大人気の遊具が置かれたくすのき広場とはらっぱ広場、約40本のソメイヨシノが咲くさくら街道と幾種もの桜が共演するさくら小径、弘法大師空海により、薬用としてたらされた俗説がある絢爛豪華な「花の王」牡丹が約150本、見られる牡丹のエリア、遠く瀬戸内海が見渡せる花見台と野鳥の観察ができるわらべの谷、たくさんの苗木が植えられた百年

の森とピオトープのぶっじよる池など、思う存分自然とふれあうことができます。

また、剪定教室や季節に応じた講習会なども定期的に行われており、ガーデニングに関わる専門家の話も気軽に聞くことができます。

色とりどりの草花に囲まれながら、自然とふれあう時間をお過ごしください。



五岳山を背景に広がる花畑



五岳山の麓に広がる公園です。



上空から見た市民集いの丘公園



春には多くの方が花見に訪れます。



子どもたちに大人気の遊具



ネモフィラが広がる花壇



- 吉原町918-1
- JR善通寺駅から車で約10分
- 入園時間/9:00~17:00(7月~9月は18:00まで)
- 休園日/火曜(祝日の場合は翌日)
- 年末年始(12月28日~1月4日)
- 入園料/無料
- 駐車場/あり
- 問い合わせ/☎ 0877-63-8753



緑に囲まれた自然豊かな公園。
週末には多くの人でにぎわいます。



- 与北町2055-1
- JR普通寺駅から車で約10分
- 【公園施設】
- 開園時間／9:00～21:30(デイキャンプ場は9:00～17:00)
- 休園日／年末年始(12月28日～1月4日)
- 駐車場／あり
- 問い合わせ／☎ 0877-56-5355
- 【グラウンド】
- 開場時間／9:00～21:30
- 休場日／年末年始(12月28日～1月4日)
- 駐車場／あり
- 問い合わせ／☎ 0877-64-0633

自然を感じながら楽しめる 多目的公園

鉢伏ふれあい公園は、市制50周年を迎えた平成15(2003)年にオープンした大型多目的公園です。芝とクレイ(土)の2面グラウンドを有し、野球、ソフトボール、サッカーなどが楽しめます。また、マウンテンバイクコースも整備され、シクロクロスなどのクロスカントリー競技も行われています。

デイキャンプ専用のキャンプ場は、バーベキューなど個人から大人数までが楽しむこと

ができ、茶室「鉢伏軒」では本格的な茶会も開催されます。

遊歩道を進むと星空観測室があり、公共施設では四国初となるスライド開閉ドーム屋根が採用され、本格的にスカイウォッチングを楽しめる施設として、定期的に天体観測会が開催されています。

多くの方にさまざまな形で利用される鉢伏ふれあい公園。ぜひその魅力を感じてください。



五重塔、赤レンガ倉庫、^{いちよう}銀杏並木が 織り成す色彩豊かな散歩道

総本山善通寺の南大門から陸上自衛隊善通寺駐屯地へ抜ける通りは、市民憩いの散策コースとして「ゆうゆうロード」と名付けられました。善通寺市のシンボリック建造物である五重塔を背景に、旧陸軍第11師団の兵器庫として造られた赤レンガ倉庫、季節によって色彩が変化する約80本の銀杏並木など、整備された街並みと歴史的建造物を一同に望むこ



黄金色に染まるゆうゆうロード

とのできる通りです。最近では写真スポットとしても話題となり、黄金色に色づく銀杏やライトアップされた五重塔、夕景などを撮影に訪れる人も多くいます。

歴史を感じさせる情感漂うゆうゆうロードは、善通寺市の旅情を象徴するスポットとして、「みちくさ遍路」の表紙にも採用しています。善通寺市の魅力が凝縮された風情豊かな散歩道をぜひ歩いてみてください。



夕暮れ時のゆうゆうロードと赤レンガ倉庫



花びら舞い散る春の風景



夏の風物詩「善通寺まつり」



砲弾の形状の車どめ



■南町

●総本山善通寺南大門から徒歩すぐ

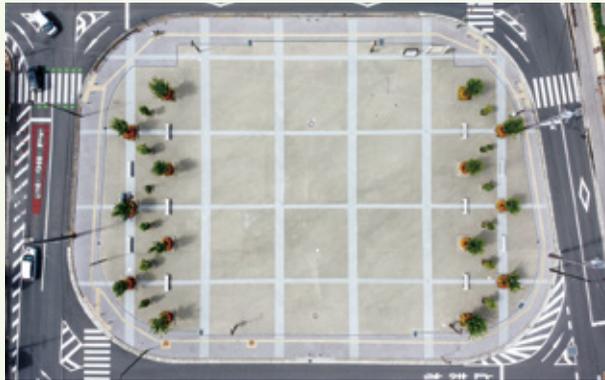
南大門前に広がる多目的広場

総本山善通寺の南大門は伽藍（東院）の南に位置する善通寺の正門で、日露戦争戦勝を記念して明治41（1908）年に再建されました。この総本山善通寺の玄関ともいえる南大門前に広がるにぎわい広場は、平成28（2016）年に整備されました。南には旧陸軍第11師団の赤レンガ倉庫に続くゆうゆうロード、北には総本山善通寺の赤門に続くあいあいロードがあり、市内観光の中心地に位置しています。

市街地の観光交流の活性化とにぎわい再生を目的として整備されたこの広場は、夏に



- 善通寺町二丁目（南大門前）
- 総本山善通寺南大門から徒歩すぐ



上空から見たにぎわい広場

は善通寺まつりのメインイベント会場として、秋には空海まつりの会場の1つとして獅子舞が披露されるなど大勢の人でにぎわいます。

五重塔が目の前に広がるこの広場は、市民や学生の憩いの場として、またお遍路さんの休息の場としても利用されており、市内散策の疲れを癒やすのにもおすすめです。広場内にはポケットモンスターの人気キャラクター「ヤドン」が描かれたマンホールもあり、楽しい発見が待っています。

善通寺まつり

善通寺まつりは、毎年7月下旬に開催される善通寺市最大の夏祭りです。流し踊りが盛り上げるまつりで、善通寺市内外から多数の踊り手たちが集い、色とりどりの衣装を身にまとって、趣向を凝らした艶やかな踊りが披露されます。にぎわい広場に設置される特設ステージでは音楽ライブやパフォーマンスショーなどが行われます。また、協賛行事として陸上自衛隊善通寺駐屯地で花火大会も行われ、地上間近に迫る花火に歓声が上がります。



空海まつり

空海まつりが開催される11月3日は、弘法大師空海くわいの父、佐伯善通公よしかみの命日と伝えられ、空海まつりは、空海が高野山から里帰りして、両親や先祖へ御法楽をささげる行事です。空海の尊像を乗せた輿こしが稚児、御詠歌衆ごえいかしゅうを連れて市街地を巡る市中練供養が行われ、伽藍（東院）に戻ると佐伯祖廟さへきそびょう前で「佐伯祖廟御法楽」が執り行われます。その後、空海の尊像は御影堂に戻り「弘法大師坐像里帰り法要」が営まれます。

同日伽藍では市が開かれ、奉賛行事として「子泣き相撲」などさまざまな催しが行われます。伽藍とともににぎわい広場では「獅子舞奉納」が行われ、市内約40の獅子組が一斉に踊り出す風景は見応えがあります。





善通寺市の春のシンボル



善通寺市を見守り続ける桜の大樹

善通寺駅の東に位置する駐車場の一角に桜の大樹があります。かつては、駅の東、現在の善通寺多度津線を挟んだ所に旧陸軍第11師団の将校官舎があり、その庭に咲いていた桜の木を移植したと伝えられています。

戦前の善通寺駅は東からも出入りすることができ、この場所で見送りが行われていました。昭和12(1937)年に日華事変が起きると、「赤紙」の召集令状により多くの兵士が戦地に赴くこととなり、日の丸の旗を

持った家族や大勢の人に見送られ、盛大な壮行会が行われました。この桜はそうした出征兵士を見送り、家族達を見守ってきました。

時代が移り変わった今でも毎年春になると満開の花を咲かせます。市の玄関口である駅のホームからも目を引くこの木は、市を訪れる多くの人を華やかに出迎えています。



訪れる人を温かく迎える桜の木

HISTORY

善通寺市の歴史

善通寺市のまちには、古墳などの遺跡から明治の洋風建築、現代の施設までさまざまなものが共存しています。ここでは、長い歴史を軸にしてどの時代に何ができたのかを表しました。なお、この本で紹介する88ヶ所の中には、できた年代が不明だったり時代が一致しないため、掲載していないものもあります。

時代	年代等	できごと	関連する善通寺市88ヶ所	
旧石器時代	約2～300万年前	人類の誕生		
		サヌカイトで石器をつくる		
後期旧石器時代	約2～3万年前	人類が善通寺市に登場		
縄文時代	早期	約1万年前	土器造りの始まり	
	前期			
	中期			
	後期	約3000年前	市内で多くの人々の生活が始まる	
	晩期			
弥生時代	前期	前3～前2世紀代	稲作の始まり	
	中期	前1～1世紀代	高地性集落が出現 青銅器の祭祀が盛んに行われる	54我拝師山遺跡
	後期	2～3世紀代	今の市街地の北部に大集落ができる	
古墳時代	発生期	3世紀後半	古墳が造られ始める	35野田院古墳
	前期	4世紀代	統一国家の始まり	37磨白山古墳割竹形石棺
	中期	5世紀代	大きな前方後円墳が造られる	52青龍古墳
	後期	6世紀代	大陸から様々な文化や技術が伝わる	34王墓山古墳 39菊塚古墳
	終末期	7世紀初頭	多くの小規模古墳が造られる	36宮が尾古墳 38岡古墳群 40吉原椀貨塚古墳
(飛鳥)	7世紀代～	寺院建立の動きが起こる		
(白鳳)	8世紀初頭	市内に初めて寺院が建立される	41仲村廃寺	

時代	年代等	できごと	関連する善通寺市88ヶ所
奈良時代 (天平)	710～793	平城京に遷都、法治国家の始まり 讃岐の塩・米・麦が税として都に納められる 讃岐国分寺・尼寺が建立される	
	774	弘法大師が佐伯氏に誕生する	
平安時代	794～	平安京に遷都	13総本山善通寺 24曼荼羅寺
	816	弘法大師が高野山に金剛峯寺を開く	26出釋迦寺 27捨身ヶ嶽禅定 28甲山寺 30金倉寺 32智証大師降誕浴灌井
	821	弘法大師が満濃池を修築する	46犬塚 47仙遊寺 51七仏薬師
	967	延喜式施行	
	12世紀代	香色山山頂に多くの経塚が造られる	25西行庵
鎌倉時代	1192	源頼朝が征夷大将軍となる	
	1307	善通寺伽藍并寺領絵図が描かれる	
室町時代	1334～1573 (南北朝時代)	細川定禪讃岐を平定	17足利尊氏の利生塔
	1336～1392 (戦国時代)	土佐の長宗我部元親讃岐に侵攻し天霧城主香川信景を下す	56天霧城跡
	1467～1573	豊臣秀吉の四国征伐により長宗我部元親降伏	
安土桃山時代	1573～1600	1587 生駒親正入国、高松城を築く	
	1597	生駒親正・一正父子丸亀城築城に着手する。	74買田池
江戸時代	1600～1867	1641 肥後国豊岡城より山崎家治が転封、丸亀城に入る	
	1642	松平頼重高松玉藻城に入る	
	1659	山崎家のあとへ播州竜野城主京極高和が丸亀城に入る	
	1694	京極高通多度津に分封	
	1798	香色山山裾に戸次川戦死者供養のため88体の石仏が置かれた	20御影堂 58三二88ヶ所

時代	年代等	できごと	関連する普通寺市88ヶ所
江戸時代 1600～1867	1858	勤皇僧月照、西郷隆盛と共に薩摩灘に入水	55月照・信海
明治 1868～1911	1868	明治と改元、一世一元制となる	
	1871	廃藩置県により讃岐は高松県・丸亀県となるが、同年11月両県合併により香川県(1次)となる	
	1873	香川県を廃し徳島の名東県と合併する	
	1875	名東県から香川県(2次)となる	
	1876	香川県を廃し愛媛県と合併する	
	1888	愛媛県を分割し香川県(2次)が独立する	
	1889	讃岐鉄道会社、丸亀-琴平間開通	1普通寺駅
	1890	竜川・与北・象郷・吉原・筆岡・普通寺・麻野・吉田の各村が発足した	
	1896	旧陸軍司令部を普通寺村に設置以後、市街地南側に師団整備が進む	2旧普通寺偕行社 5旧陸軍第11師団(騎兵隊)兵舎 6旧陸軍第11師団司令部 7旧陸軍第11師団兵器庫 19熊岡菓子店 31乃木將軍妻返しの松 66カイツカの並木 88普通寺駅の桜
	1899	那珂・多度両郡を廃し仲多度郡とする	9旧瀬川酒店 10旧大川酒店 12水尾写真館 21宝物館 44河田迪斎顕彰碑
大正 1912～1925	1912	大正政変(第1次護憲運動)	
	1922	琴平参宮電鉄により普通寺-丸亀間開通	8琴参電車の跡
昭和 1926～1988	1930	普通寺が総本山に昇格	3讃岐宮 4乃木神社
	1945	終戦	45レターポスト

時代	年代等	できごと	関連する普通寺市88ヶ所
昭和 1926～1988	1950	警察予備隊普通寺駐屯部隊が創設される	
	1954	普通寺市が発足	
	1962	普通寺市立郷土館開館	33普通寺市立郷土館
	1968	普通寺市庁舎完成	22涅槃桜
	1974	香川用水通水式挙行	
	1977	資源リサイクル運動開始	23濟世橋
	1985	普通寺市総合会館開館 平戸市との姉妹都市縁組調印	
平成 1989～2018	1990	高野町との歴史友好都市縁組調印	
	1992	普通寺市民体育館開館	78普通寺市民体育館
	1993	第48回国民体育大会開催 普通寺市民プール開園	78普通寺市民プール
	1999	普通寺市美術館開館	77普通寺市美術館(大西忠夫記念館)
	2001	ゆうゆうロード完成	86ゆうゆうロード
	2003	おしゃべり広場開館 鉢伏ふれあい公園開園	83おしゃべり広場 85鉢伏ふれあい公園 80赤門七仏薬師
	2008	旧普通寺偕行社復元整備完了・附属棟開館	82偕行社かふえ
	2010	「普通寺五岳の里」市民集いの丘公園開園	84「普通寺五岳の里」市民集いの丘公園
	2011	普通寺市観光交流センター開館	81普通寺市観光交流センター
	2016	にぎわい広場完成	87にぎわい広場
令和 2019～	2022	普通寺市新庁舎完成	
	2023	ZENキューブ完成	

原始
 古代
 中世
 近世
 近代
 現代

INDEX [索引]

ア	ページ
あかもんしちぶつやくし 80 赤門七仏薬師	124
あしかたかうじ りしやうとう 17 足利尊氏の利生塔	37
あせ じぞうぼさつ 48 阿瀬の地藏菩薩	82
あまぎりやま あまぎりじやうあと 56 天霧山・天霧城跡	92
い き ぬう 73 沓岐の湧	113
いぬづか 46 犬塚	80
おうはかやまこふん 34 王墓山古墳	64
おおいけ 75 大池	117
おおいぬう かみぬう しもぬう 70 大井湧 (上湧・下湧)	112
おおくす 16 大楠	36
おおきじんじや 43 大麻神社	77
おおきやま 68 大麻山	108
おおじぞう 53 大地蔵	88
おかこふんぐん 38 岡古墳群	72
ひろば 83 おしゃべり広場	130
おのだちこうえん 79 御野立公園	124
カ	
かいこうしや 82 偕行社かふえ	128
かいだいけ 74 買田池	116
なみき 66 カイツカの並木	105
かなくらがわ 64 金倉川	103
がはいしん 60 我拝師山	99
がはいしんいせき 54 我拝師山遺跡	89

かぶとやま 29 甲山	56
かわだてきさぎけんしやうひ 44 河田迪斎顕彰碑	78
きくづかこふん 39 菊塚古墳	73
きくまのじんじや 67 木熊野神社	106
きやうおおかわさけてん 10 旧大川酒店	25
きやうせがわさけてん 9 旧瀬川酒店	24
きやうぜんつうじかいこうしや 2 旧善通寺偕行社	12
きやうりくぐんだいじやういちしだん きへいたい へいしや 5 旧陸軍第11師団(騎兵隊)兵舎 (現 四国学院大学校舎)	17
きやうりくぐんだいじやういちしだんし れい ぶ 6 旧陸軍第11師団司令部 (現 陸上自衛隊善通寺駐屯地・乃木資料館)	18
きやうりくぐんだいじやういちしだんへい き こ 7 旧陸軍第11師団兵器庫 (現 陸上自衛隊善通寺駐屯地倉庫)	20
くまおかかしてん 19 熊岡菓子店	39
くもけじんじや 50 雲気神社	84
げっしやう しんかい 55 月照・信海	90
こうしきざん 57 香色山	96
こうやまじ 28 甲山寺	54
ごじやうとう 14 五重塔	32
ことざんでんしや おもかげ 8 琴参電車の面影	22
こひやくらかん 18 五百羅漢	38
こんぞうじ 30 金倉寺	58
+	
さいぎやうあん 25 西行庵	48
さいせいし 23 濟世橋	45
さいいじんじや せいりやうこふん 52 鷲井神社・青龍古墳	86
さぬきぐう かがわけんごこじんじや 3 讃岐宮 (香川県護國神社)	14

じぞういけ 76 地藏池	118
しちぶつやくし 51 七仏薬師	85
しやしんがだけぜんじやう 27 捨身ヶ嶽禪定	52
しゆっしやかじ 26 出釋迦寺	50
すりやまこふんわりたけがたせつかん 37 磨白山古墳割竹形石棺	70
ぜんつうじえき 1 善通寺駅	10
ぜんつうじえき さくら 88 善通寺駅の桜	140
ぜんつうじごかく さと しみんつど おかこうえん 84 「善通寺五岳の里」市民集いの丘公園	132
ぜんつうじこんどう 15 善通寺金堂	34
ぜんつうじしかんこうこうりやう 81 善通寺市観光交流センター	124
ぜんつうじしびじやつかん おおにしただおきねんかん 77 善通寺市美術館(大西忠夫記念館)	120
ぜんつうじしみんたいいくかん ぜんつうじしみん 78 善通寺市民体育館・善通寺市民プール	122
ぜんつうじしりつきやうどかん 39 善通寺市立郷土館	62
ぜんぬうじ 47 仙遊寺	81
そうほんざんぜんつうじ 13 総本山善通寺	30
夕	
ちしやうだいしこうなんまくかんい 32 智証大師降誕浴灌井	61
ナ	
ながいのしみず 71 永井清水	113
なかわらじやうあと 49 仲村城跡	83
なかわらはいじ 41 仲村庵寺	75
なかもやま 61 中山	100
87 にぎわい広場	138
ねはんざくら 22 涅槃桜	44
のぎしやうぐんつまがえ まつ 31 乃木将軍妻返し松	60

のぎじんじや 4 乃木神社	16
のたのいんこふん 35 野田院古墳	66
ハ	
はちぶせ こうえん 85 鉢伏ふれあい公園	134
ひあげやま 62 火上山	101
ひろたがわ 63 弘田川	102
ふたがしらですい 72 二頭出水	114
ふでのやま 59 筆ノ山	98
ほうもつかん 21 宝物館	42
マ	
まえいけ 65 前池のオニバス	104
まんだらじ 24 曼荼羅寺	46
みえどう 20 御影堂	40
みずおやしんかん 12 水尾写真館	27
かしょ 58 ミニ88ヶ所	97
みやがおこふん 36 宮が尾古墳	68
ヤ	
やましたさけてん かんみちやや 11 山下酒店(甘味茶屋 Sari Sari)	26
86 ゆうゆうロード	136
よぎた ちやどう 42 与北の茶堂	76
よしだはちまんじんじや いしがみじんじや 69 吉田八幡神社の石神神社	110
よしわらわんかしづかこふん 40 吉原椀貸塚古墳	74
ラ	
45 レターポスト	79

参考文献

- 『善通寺市史・第一巻』 善通寺市 1977年7月
『善通寺市史・第二巻』 善通寺市 1988年10月
『善通寺市史・第三巻』 善通寺市 1994年12月
『讃岐の傳説・第一集』 草薙金四郎 株式会社香川県教科図書 1952年10月
『善通寺市百年々表』 善通寺市文化財保護協会 1970年4月
『弘法大師御誕生所 善通寺』～弘法大師とその宝物～ 総本山善通寺 1972年10月
『善通寺市の古代文化』 矢原高幸・善通寺市 1973年11月
『大師の里ハイクラッド史跡めぐり』 善通寺市教育委員会・善通寺市文化財保護協会 1979年4月
『大師の里ドライブハイクラッドめぐり』史跡解説 善通寺市教育委員会・善通寺市文化財保護協会 1979年4月
『ふるさとの探訪』 善通寺市教育委員会 1982年4月
『ふるさと学級史跡めぐり』 善通寺市教育委員会 1981年3月
『香川の保存木』 香川県緑化推進委員会・香川県 1981年3月
『天霧城跡発掘調査概報』 香川県教育委員会・天霧城跡発掘調査団 1982年3月
『五岳のいしずえ』～郷土史講座資料集成1～ 善通寺公民館 1982年9月
『香川叢書・考古篇』 香川県教育委員会 1983年3月
『天霧城跡』 秋山忠・一市二町天霧城跡保存会 1983年12月
『仲村庵寺発掘調査報告書』 善通寺市教育委員会 1984年3月
『善通寺の風景』明治建築の町並(一) 上野時生・善通寺ロータリークラブ 1985年6月
『善通寺の原風景』 上野時生・香川県建築設計監理協会 1986年10月
『仲村庵寺』 善通寺市教育委員会 1989年3月
『善通寺の文化財地図』 善通寺市教育委員会 1989年3月
『史跡有岡古墳群(王墓山古墳)保存整備事業報告書』 善通寺市教育委員会 1992年3月
『讃岐の歴史と文化の散歩道』～善通寺・仲多度地区～ 香川県教育委員会 1993年3月
『青龍古墳調査報告書』 善通寺市教育委員会 1994年3月
『香色山山頂遺跡群調査報告書』 善通寺市教育委員会 1996年3月
『香川の文化財』 香川県教育委員会・香川県文化財保護協会 1996年3月
『史跡有岡古墳群(宮が尾古墳)保存整備事業報告書』 善通寺市教育委員会 1997年3月
『香川の自然保護マップ』 香川県生活環境部環境局環境・土地政策課自然保護室 1999年4月
『過去からの遺産を明日へ』(旧陸軍善通寺第11師団の建築施設群) 社団法人日本建築学会四国支部 1999年11月
『善通寺第十一師団誕生の記憶』 大河内義雅 2009年2月
『図説日本史通覧』 株式会社帝国書院 2014年2月

編集後記

『みちくさ遍路 2001 ～善通寺88ヶ所めぐり～』は、西暦2000年を記念したミレニアム事業として発行され、善通寺市の自然や歴史スポットをめぐり、楽しんでいただける本として市民をはじめ多くの皆様に親しまれてきました。

初版から約20年、平成から令和へと歴史の転換を経て、この度『みちくさ遍路』を刷新しました。新たな88ヶ所を再編する中で、あらためて88ヶ所をめぐり、これまでと変わらないものや変わったもの、新しいものに出会い、善通寺市の魅力を再発見することができました。

新たな『みちくさ遍路』を手にとっていただきました皆様にはぜひこの本を持って、善通寺市で「みちくさ」をしていただきたいと思います。市内をめぐることのできた気づきや発見は、善通寺市の魅力の発信につながるだけでなく、ふるさとへの愛着を育むものと考えています。

これまで同様、多くの皆様に楽しんでいただき、皆様にとって長く手元に置いておきたい1冊となることを願っています。

最後に、本企画に惜しめない御尽力と御協力を賜りました皆様には心よりお礼を申し上げます。



みちくさ遍路 善通寺市88ヶ所めぐり

2021年3月 初版発行
2024年4月 第2版発行

発行／善通寺市
〒765-8503 香川県善通寺市文京町二丁目1番1号
TEL 0877-62-2121(代表)

協力／大河内義雅(善通寺市文化財保護協会)
取材・文／福家富美子
撮影／善通寺市地域おこし協力隊 ほか
デザイン・印刷・製本／株式会社 弘栄社

無断転載を禁じます。

善通寺市街地図



善通寺市全図



この本で紹介する「善通寺市88ヶ所」の位置を示しました。
 詳しくは数字(みちくさ道路番号)のページをご覧ください。
 〇で囲った市街地図は左記に掲載しています。